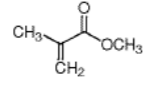
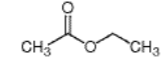
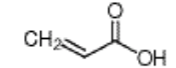
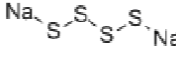
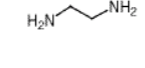
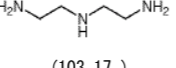
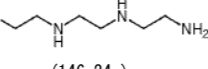
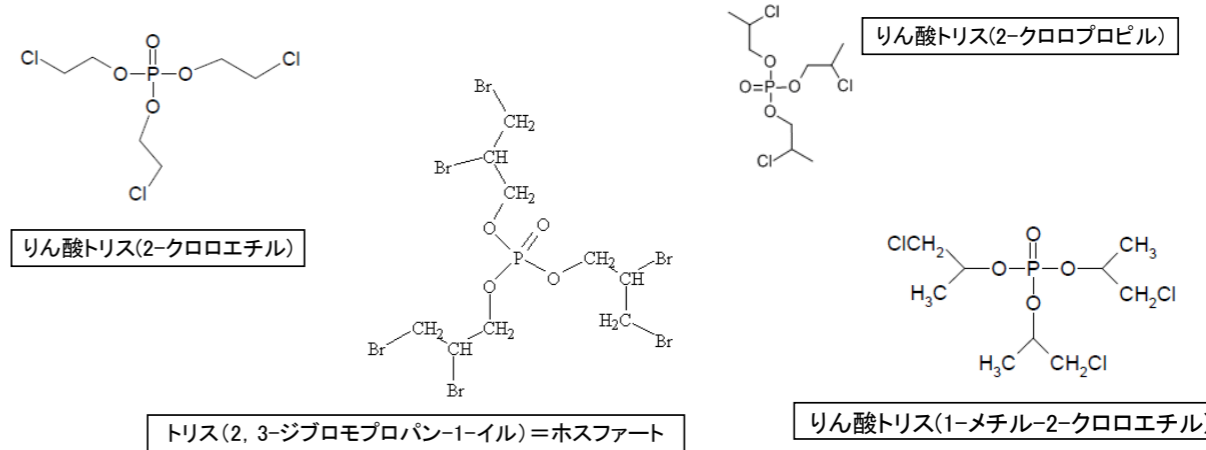
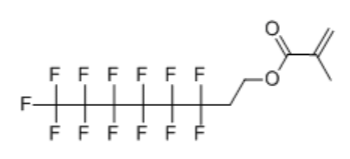
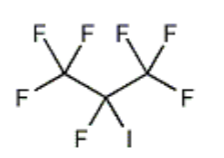
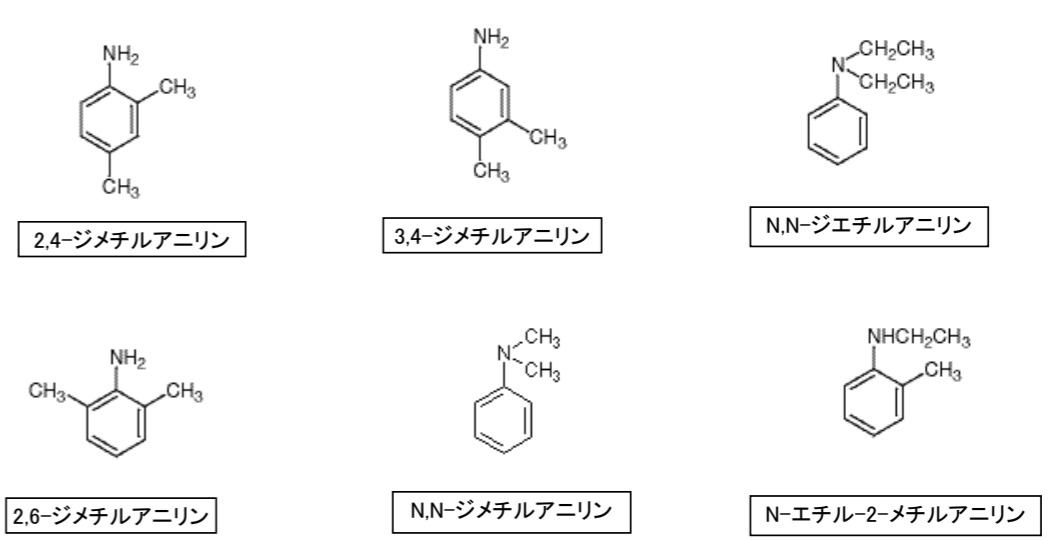
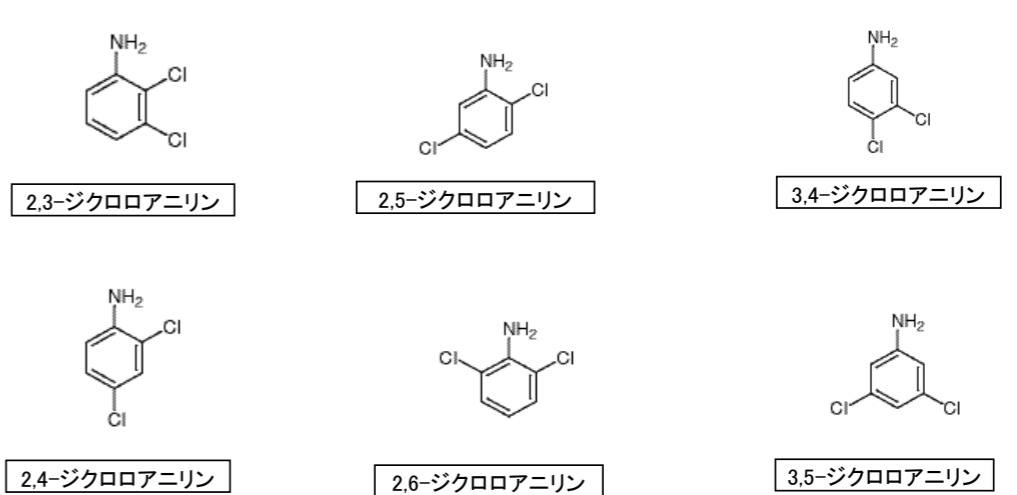
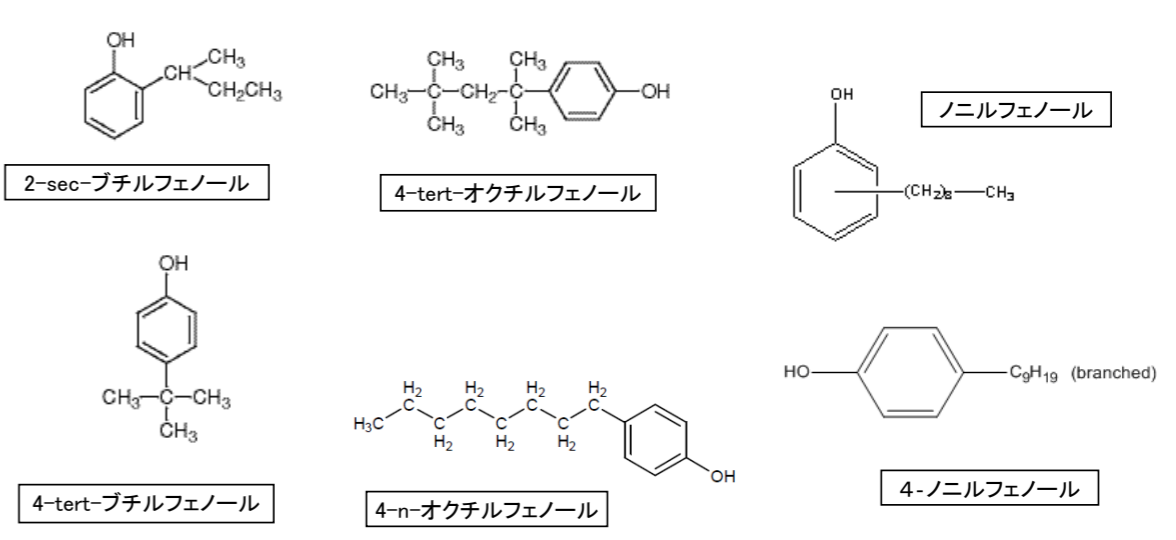
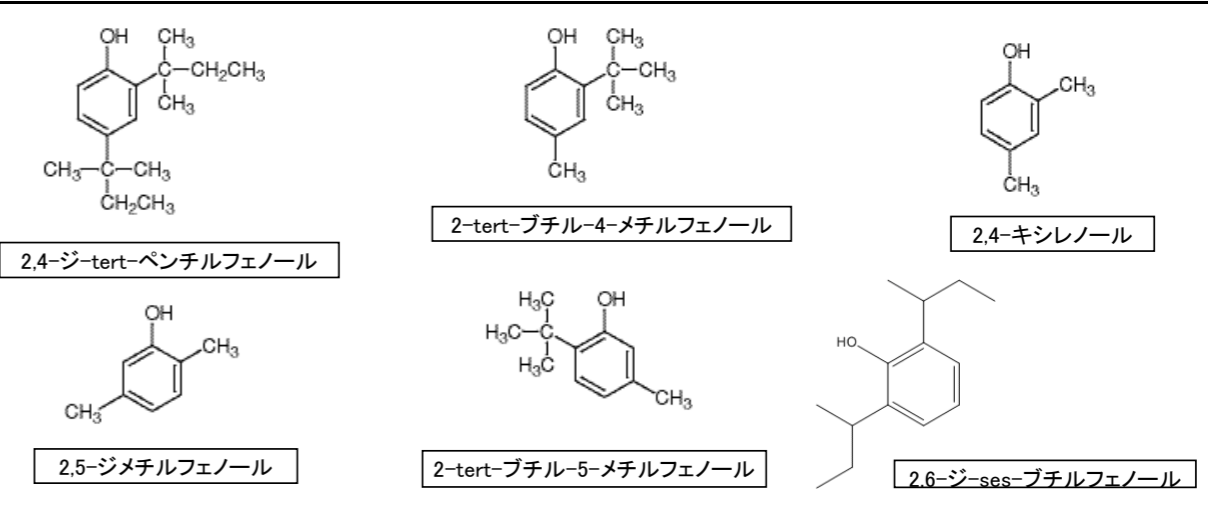
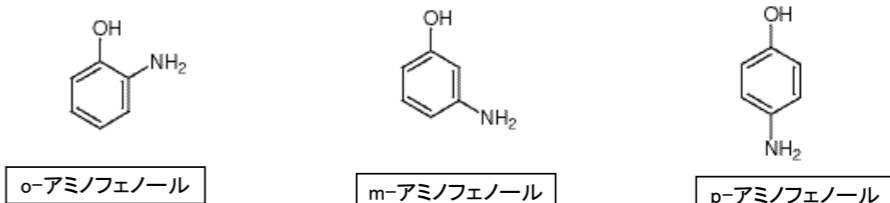
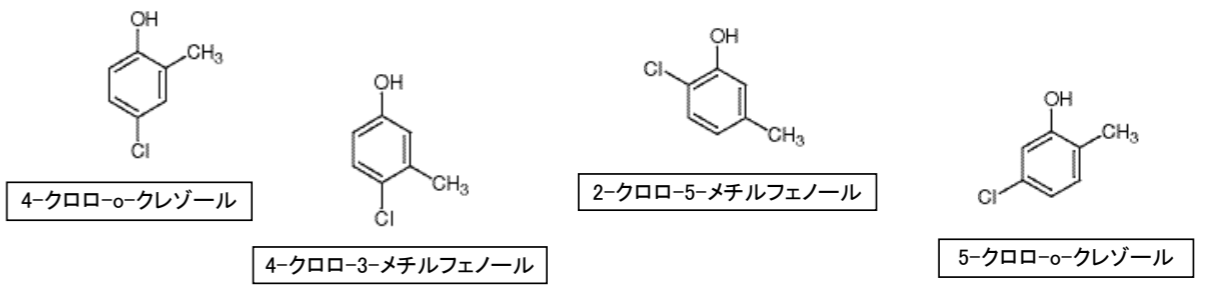
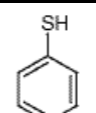
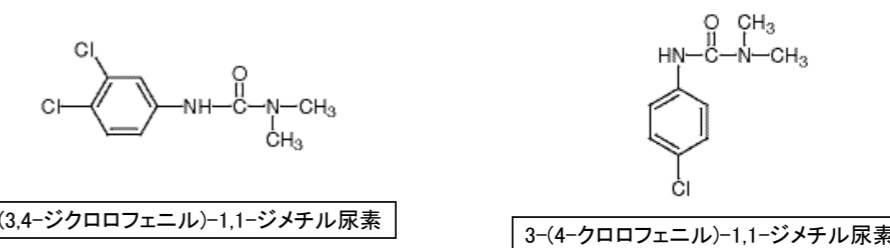
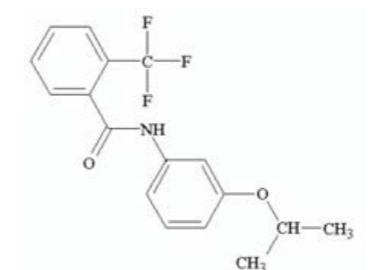
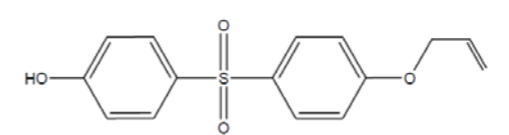


国内外の事故事例調査：調査該当5物質

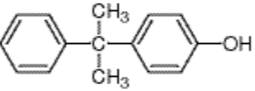
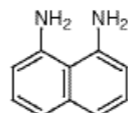
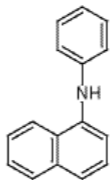
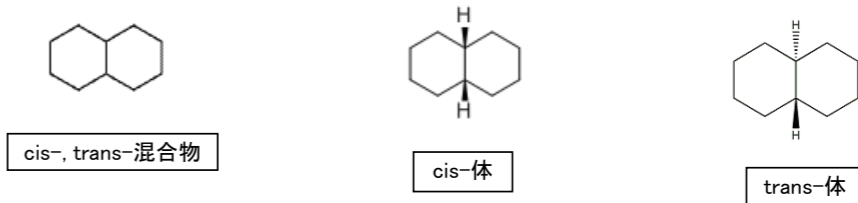
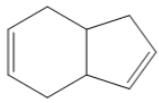
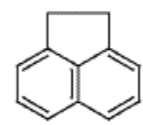
一般名称	CASNo.	化学式 (MW)	文献調査結果	候補類	物質の状態	事故・性状等	用途	年間生産量等	選考根拠
1 メタクリル酸メチル	80-62-6	 (100)	第4類第1石油類非水溶性液体	—	融点：-48℃ 沸点：100℃ 引火点：9℃ 発火点：435℃ (東京化成 (M) SDS)	2011年3月 日本（愛媛県） 化学会社の合成樹脂の原料粉砕機の運転中に発煙し、火災となった。約1時間後に鎮火したが、同機器およびメタクリル樹脂板を粉砕したペレットくずが焼けた。発煙による有毒ガスの発生はなかった。けが人はなかった。会社の調べでは、メタクリル樹脂板製造時に出る不良品等そのリサイクルする粉砕機が地下に設置されており、火災の救時間前に、リサイクル過程の中の乾燥過程で故障が発見され、復旧のために同機器を空運転していた。 (リレシヨナル化学災害DB) 爆発限界2.1~12.5%（空气中）。引火性液体で、蒸気は空気と爆発性混合ガスをつくる。 (16313の化学商品) 熱、光などの影響や過酸化物などの重合開始剤との接触により重合することがある (東京化成工業SDS)	建材材料、成形用ペレット、照明器具、公告看板、日用品、塗料、接着剤 (16313の化学商品)	200,000t (一般化学物質等の製造・輸入数量 (23年度実績)：経済産業省)	リレシヨナル化学災害データベース 既知の危険性による事故であり、既に危険物として指定されているため、除外
2 酢酸エチル	141-78-6	 (88.11)	第4類第1石油類非水溶性液体	—	融点：— 沸点：77℃ 引火点：-3℃ 発火点：427℃ (東京化成 (M) SDS)	2011年9月 日本（鹿児島県） 原子力発電所の原子力建屋の設備定期検査工事中にストレーナ（フィルタ）の洗浄作業をしていた際に作業エリア内で火災が起きた。養生ビニルの一部が焼けた。消火活動の際に作業員2名が手にやけどを負ったが、放射線物質による汚染、被ばくはなかった。会社の調べでは、火災場所は2次系のタービン建屋で、火災時は2次系ポンプ（復水プースタポンプ）分解点検作業のため作業員らが可燃性溶剤の洗浄液を用いてストレーナの洗浄をしていたところ、スプレー噴霧により生じた静電気が原因で着火した可能性がある。作業員らは、可燃性の洗浄液が手に付着した状態で消火活動を行ったため、手に引火した。 (リレシヨナル化学災害DB) 爆発限界2.0~11.5%、揮発性できわめて引火しやすい。空気との混合ガスは2.5~9%において火源があると爆発する。 (16313の化学商品)	塗料及び印刷インキ、レーザー、接着剤、真珠、医薬品原料などの溶剤または原料 (16313の化学商品)	輸出=878,639kg (2011年) 輸入=124,610,595kg (2011年) (16313の化学商品) 300,000 t (一般化学物質等の製造・輸入数量 (23年度実績)：経済産業省)	リレシヨナル化学災害データベース 事故概要には原因物質は示されていないが、関連物質として酢酸エチルが記載されていた。 既知の危険性による事故であり、既に危険物として指定されているため、除外
3 アクリル酸	79-10-7	 (72.06)	第4類第2石油類水溶性液体	5 (8)	融点：13℃(凝固点) 沸点：141℃ 引火点：51℃ 発火点：428℃ (東京化成 (M) SDS)	2012年9月 日本（兵庫県） 日本触媒姫路製造所アクリル酸製造施設でタンクの異常な温度上昇により爆発炎上、隣接しているタンク2基に延焼し消防車両にも延焼 (災害情報センターDB) 冷却操作の不備からタンク内の温度が上昇してアクリル酸の二量体生成が進行し、その反応熱により温度が上昇した。その後、アクリル酸が重合反応を開始する温度条件に達し、重合熱で更に温度が上昇して重合が進行し、タンク内が沸騰状態となって圧力が上昇、タンクに亀裂を生じた。亀裂によってタンクの圧力が急激に低下したため、蒸気爆発が起こり、飛散した内容物に着火し、火災を生じた。 (事故調査委員会 中間報告書)	不織布バインダー、フロッキー加工用バインダー、繊維の改質剤など。ポリアクリル酸塩類は高吸水性樹脂、増粘剤、凝集剤。 (16313の化学商品)	293,120t (優先評価化学物質等の製造・輸入数量 (23年度実績)：経済産業省)	災害情報センター 直接的な原因は冷却の不備だが、温度上昇に伴って進行した重合反応が爆発の原因であるため、一次候補に抽出
4 四硫化ナトリウム	12034-39-8	 (174.24)	—	3	融点：255℃ 沸点：>300℃ 引火点：情報なし 発火点：215℃ (IUCALID)	2012年2月 日本（愛知県） フレキシブルコンテナの中にあつた廃棄物から出火。廃棄物に付着していた四硫化ナトリウムが雨の影響で吸湿し、発火した可能性が考えられた。 酸と反応して硫化水素を生じる。過熱すると危険な分解物を生じ、火災時には二酸化硫黄を生じることがある。 (IUCALID)	製油所のプロセス廃水処理剤、原皮の水漬促進剤、多硫化系合成ゴムの製造、重金属固定剤	多硫化ナトリウムとして 1,000t未満 (一般化学物質等の製造・輸入数量 (23年度実績)：経済産業省)	危険物事故事例（消防庁） 吸湿後に自然発火した可能性が示唆されるため、一次候補に抽出
5 エチレンジアミン	107-15-3 (エチレンジアミン)	 (60.10)	第4類第2石油類水溶性液体	—	融点：10℃(凝固点) 沸点：116℃ 引火点：34℃ 発火点：385℃ (東京化成工業(M)SDS)	2013年4月 日本（山口県） 「東ソー」南陽事業所でエチレンジアミン製造プラントから出火、野外の配管など約20平方m焼損 (災害情報センターDB) 製造中のエチレンジアミンが外部に漏れ、引火した可能性があるとみて調べている。 (M山口) 爆発性に関わる原子団を含んでいない。爆発性に関わる原子団を含んでいない、かつ自己反応性に関わる原子団を含んでいない。 (GHS分類結果 (厚生労働省・環境省事業))	エポキシ樹脂硬化剤、紙力増強剤、キレート剤、潤滑油添加剤、アスファルト添加剤、界面活性剤など多様な用途に使用。 極めて反応性豊かな第1級及び第2級アミノ基を持ち、多くの化合物と反応する。 EDC、アンモニア、苛性ソーダを主原料として生産される。 (東ソーHP)	30,000t (一般化学物質等の製造・輸入数量 (23年度実績)：経済産業省)	災害情報センター 既知の危険性による事故であり、既に危険物として指定されているため、除外
	111-40-0 (ジエチレントリアミン)	 (103.17)	第4類第3石油類水溶性液体		融点：-35℃(凝固点) 沸点：209℃ 引火点：97℃ 発火点：358℃ (東京化成工業(M)SDS)			不明	
	112-24-3 (トリエチレントラミン)	 (146.24)	第4類第3石油類水溶性液体		融点：情報なし 沸点：266℃ 引火点：143℃ 発火点：338℃ (東京化成工業(M)SDS)			8,000t (一般化学物質等の製造・輸入数量 (23年度実績)：経済産業省)	

番号	種別	官報公示整理番号	名称	製造・輸入量(t)	CAS	性状等	備考(構造式)
1	一般	2-1941	ブロモ-又はクロロ-アルキル又はアルケニル-ホスフェート	6,861		<p>リン酸トリス(2-クロロエチル)(CAS 115-96-8) 引火点222°C、沸点146°C(0.1kPa)、発火点285°C 危険有害反応可能性: 特別な反応性は報告されていない。 第4類第4石油類(東京化成工業SDS)</p> <p>トリス(2, 3-ジブロモプロパン-1-イル)=ホスファート(CAS 126-72-7) 引火点>100°C、沸点以下で200°Cで分解 危険有害反応可能性: 強酸化剤、酸、塩基と反応する。 第4類第3石油類(安全衛生情報センターSDS)</p> <p>リン酸トリス(2-クロロプロピル)(CAS 6145-73-9) 引火点249.7°C、沸点358.5°C (LookChem)</p> <p>リン酸トリス(1-メチル-2-クロロエチル)(CAS 13674-84-5) 引火点204°C(クリーブランド開放) 第4類第4石油類(和光純薬SDS)</p>	 <p>リン酸トリス(2-クロロエチル)</p> <p>リン酸トリス(2-クロロプロピル)</p> <p>リン酸トリス(1-メチル-2-クロロエチル)</p> <p>トリス(2, 3-ジブロモプロパン-1-イル)=ホスファート</p>
2	一般	2-4065	3, 3, 4, 4, 5, 5, 6, 6, 7, 7, 8, 8, 8-トリデカフルオロオクタ-1-イル=メタクリラート	1,000未満	CAS 2144-53-8	<p>引火点113°C(lit)、沸点92°C(11hPa)(lit) 安定剤としてヒドロキノン及びp-メキシフェノール(約100ppm)を含む(和光純薬SDS)</p> <p>引火点113°C(cc)、沸点96°C(10mmHg)、反応抑制剤がないと、重合して温度、圧力の上昇を招き、容器を破損する恐れがある(Fluoryx社SDS)。 第4類第3石油類</p>	
3	一般	2-4092	1, 1, 1, 2, 3, 3, 3-ヘプタフルオロ-2-ヨードプロパン	1,000未満	CAS 677-69-0	<p>沸点40°C 危険有害反応可能性: 特別な反応性は報告されていない。(東京化成工業SDS)</p> <p>引火点>115°C、発火点325°C NFPAでは Flammability: 1; Instability: 1 (Acros社SDS) 第4類第3石油類</p>	
4	一般	3-129	ジアルキル(C=1~5)アニリン	1,000未満		<p>2,4-ジメチルアニリン(CAS 95-68-1) 引火点90°C、沸点214°C、発火点460°C、第4類 第三石油類</p> <p>2,6-ジメチルアニリン(CAS 87-62-7) 引火点97°C、沸点216°C、発火点490°C、第4類 第三石油類</p> <p>3,4-ジメチルアニリン(CAS 95-64-7) 沸点226°C</p> <p>N,N-ジメチルアニリン(CAS 121-69-7) 引火点73°C、沸点194°C、発火点371°C、第4類 第三石油類</p> <p>N,N-ジエチルアニリン(CAS 91-66-7) 引火点92°C、沸点216°C、発火点330°C、第4類 第三石油類</p> <p>N-エチル-2-メチルアニリン(CAS 94-68-8) 引火点98°C、沸点214°C、発火点445°C、第4類 第三石油類</p> <p>以上のいずれも危険有害反応可能性については、特別な反応性は報告されていない。(東京化成工業SDS)</p>	 <p>2,4-ジメチルアニリン</p> <p>2,6-ジメチルアニリン</p> <p>3,4-ジメチルアニリン</p> <p>N,N-ジエチルアニリン</p> <p>N,N-ジメチルアニリン</p> <p>N-エチル-2-メチルアニリン</p>

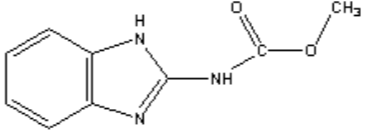
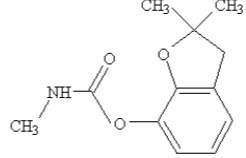
番号	種別	官報公示整理番号	名称	製造・輸入量(t)	CAS	性状等	備考(構造式)
5	一般	3-261	ジクロロアニリン	1,000未満		<p>2,3-ジクロロアニリン (CAS 608-27-5) 融点22°C(凝固点)</p> <p>2,4-ジクロロアニリン (CAS 554-00-7) 沸点242°C、融点62°C</p> <p>2,5-ジクロロアニリン (CAS 95-82-9) 沸点251°C、融点52°C</p> <p>2,6-ジクロロアニリン (CAS 608-31-1) 融点38°C</p> <p>3,4-ジクロロアニリン (95-76-1) 沸点145°C(2kPa)、融点72°C</p> <p>3,5-ジクロロアニリン (626-43-7) 沸点260°C、融点51°C</p> <p>以上のいずれも危険有害反応可能性については、特別な反応性は報告されていない。(東京化成工業SDS)</p>	 <p>2,3-ジクロロアニリン</p> <p>2,5-ジクロロアニリン</p> <p>3,4-ジクロロアニリン</p> <p>2,4-ジクロロアニリン</p> <p>2,6-ジクロロアニリン</p> <p>3,5-ジクロロアニリン</p>
6	一般	3-503	モノアルキル(C=3~9)フェノール	25,728		<p>2-sec-ブチルフェノール (CAS 89-72-5) 引火点102°C、沸点228°C、発火点270°C(東京化成工業SDS) 第4類第三石油類</p> <p>4-tert-ブチルフェノール (CAS 98-54-4) 沸点238°C(東京化成工業SDS)</p> <p>4-tert-オクチルフェノール (CAS 140-66-9) 沸点279°C、発火点360°C(東京化成工業SDS)</p> <p>4-n-オクチルフェノール (CAS 1806-26-4) 引火点140°C(和光純薬SDS)</p> <p>ノニルフェノール (CAS 25154-52-3 異性体混合物) 引火点148~155°C(C.C.)、発火点370°C(ICSC) 第4類第三石油類</p> <p>4-ノニルフェノール (CAS 84852-15-3 分岐鎖異性体混合物) 引火点150°C、発火点370°C(東京化成工業SDS) 第4類第三石油類</p>	 <p>2-sec-ブチルフェノール</p> <p>4-tert-オクチルフェノール</p> <p>ノニルフェノール</p> <p>4-tert-ブチルフェノール</p> <p>4-n-オクチルフェノール</p> <p>4-ノニルフェノール</p>
7	一般	3-521	ジアルキル(C=1~5)フェノール	17,197		<p>2,4-ジ-tert-ペンチルフェノール (120-95-6) 沸点143°C(0.5 kPa)、融点26°C(凝固点)(東京化成工業SDS)</p> <p>2,5-ジメチルフェノール (CAS 95-87-4) 沸点212°C、融点76°C(東京化成工業SDS)</p> <p>2-tert-ブチル-4-メチルフェノール (2409-55-4) 沸点244°C、融点52°C(東京化成工業SDS)</p> <p>2-tert-ブチル-5-メチルフェノール (CAS 88-60-8) 沸点244°C、融点21°C(凝固点)(東京化成工業SDS)</p> <p>2,4-キシレノール (CAS 105-67-9) 沸点212°C、発火点599°C(東京化成工業SDS)</p> <p>2,6-ジ-sec-ブチルフェノール (CAS 5510-99-6) 引火点127°C、沸点257.5°C、融点-42°C(職場のあんせんサイト) 第4類第三石油類</p>	 <p>2,4-ジ-tert-ペンチルフェノール</p> <p>2-tert-ブチル-4-メチルフェノール</p> <p>2,4-キシレノール</p> <p>2,5-ジメチルフェノール</p> <p>2-tert-ブチル-5-メチルフェノール</p> <p>2,6-ジ-sec-ブチルフェノール</p>

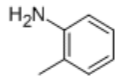
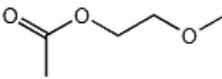

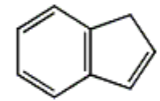
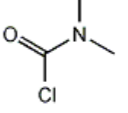
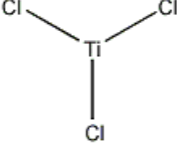
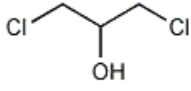
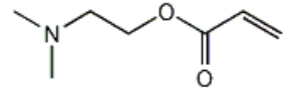
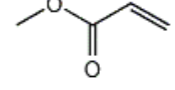
番号	種別	官報公示整理番号	名称	製造・輸入量(t)	CAS	性状等	備考(構造式)
8	一般	3-675	アミノフェノール	1,135		<p>o-アミノフェノール(CAS 95-55-6) 発火点190°C、融点170°C(東京化成工業SDS)</p> <p>m-アミノフェノール(CAS 591-27-5) 沸点164°C(1.5kPa)、発火点600°C、融点122°C 危険有害反応可能性: 粉末または顆粒上で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。(東京化成工業SDS)</p> <p>p-アミノフェノール(CAS 123-30-8) 発火点250°C、融点187°C 危険有害反応可能性: 粉末または顆粒上で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。(東京化成工業SDS)</p>	 <p>o-アミノフェノール m-アミノフェノール p-アミノフェノール</p>
9	一般	3-900	モノメチルモノクロロフェノール	1,000未満		<p>4-クロロ-o-クレゾール(CAS 1570-64-5) 融点40°C(凝固点)(東京化成工業SDS)</p> <p>4-クロロ-3-メチルフェノール(CAS 59-50-7) 沸点235°C、融点65°C(東京化成工業SDS)</p> <p>2-クロロ-5-メチルフェノール(CAS 615-74-7) 沸点196°C、融点47°C(東京化成工業SDS)</p> <p>5-クロロ-o-クレゾール(CAS 5306-98-9) 融点74°C(東京化成工業SDS)</p>	 <p>4-クロロ-o-クレゾール 4-クロロ-3-メチルフェノール 2-クロロ-5-メチルフェノール 5-クロロ-o-クレゾール</p>
10	一般	3-1092	チオフェノール	1,000	CAS 108-98-5	<p>引火点76°C、沸点168°C、融点-15°C 危険有害反応可能性: 特別な反応性は報告されていない。 (東京化成工業SDS) 第4類第三石油類</p>	
11	一般	3-2194	3-(モノ又はジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素	1,000未満		<p>3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素(CAS 330-54-1) 融点159°C 危険有害反応可能性: 特別な反応性は報告されていない (東京化成工業SDS) 不燃性。自然発火しない(安全衛生情報センターSDS)</p> <p>3-(4-クロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素(CAS 150-68-5) 融点173°C 危険有害反応可能性: 特別な反応性は報告されていない (東京化成工業SDS)</p>	 <p>3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素 3-(4-クロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素</p>
12	一般	3-3925	3'-イソプロポキシ-2-トリフルオロメチルベンズアニリド	1,000未満	CAS 66332-96-5	<p>別名:フルトラニル 150°Cで熱安定性である(農薬登録申請資料(1996年)) (関係省庁連絡会議 H18年度GHS分類結果)</p>	
13	一般	3-4585	4-[4-(アリルオキシ)フェニル]スルホニル]フェノール	1,000未満	CAS 97042-18-7	<p>別名: BPS-MAE 引火点253.659°C、沸点495.814°C(予測値ChemSpidr) 白色粉末で、蒸気圧は極めて低く、感熱紙におけるビスフェノールAの代替としての用途がある。</p>	

文献調査(一般化学物質等の製造・輸入数量): 調査該当22物質

番号	種別	官報公示整理番号	名称	製造・輸入量(t)	CAS	性状等	備考(構造式)
14	一般	4-122	4-(α , α -ジメチルベンジル)フェノール	1,000未満	CAS 599-64-4	別名: p-クミルフェノール 沸点: 189~191°C (1.33kPa)、融点: 73°C (三井化学ファイン株式会社) 沸点187°C、融点73°C、 危険有害反応可能性: 特別な反応性は報告されていない (東京化成工業SDS) 引火点160°C、沸点335°C、融点71~75°C 危険有害反応可能性: 強酸化剤と接触すると発火の危険性がある (和光純薬SDS)	
15	一般	4-324	1,8-ジアミノナフタリン	1,000未満	CAS 479-27-6	固体(結晶~粉末) 沸点 205°C、融点 65°C 危険有害性: 特別な反応は報告されていない (東京化成工業SDS)	
16	一般	4-329	1-(N-フェニルアミノ)-ナフタレン	1,000未満	CAS 90-30-2	固体(結晶~粉末) 沸点 200°C (1.3 kPa)、融点 60°C 危険有害性: 特別な反応は報告されていない (東京化成工業SDS) 発火点 > 500°C (平成24年度GHS分類結果)	
17	一般	4-575	ビシクロ[4, 4, 0]デカン	1,000未満	全部で3種類含まれ、100t以上の物質を特定できず (CAS 91-17-8、493-01-6、493-02-7)	デカヒドロナフタレン (cis-, trans-混合物 CAS 91-17-8) 引火点58°C、沸点190°C、発火点250°C (東京化成工業SDS) cis-デカヒドロナフタレン (CAS 493-01-6) 引火点58°C、沸点193°C、発火点250°C (東京化成工業SDS) trans-デカヒドロナフタレン (CAS 493-02-7) 引火点52°C、沸点185°C、発火点250°C (東京化成工業SDS) いずれも、 第4類第二石油類 に該当	
18	一般	4-581	4, 7, 8, 9-テトラヒドロインデン	2,000	CAS 3048-65-5	別名: 3a,4,7,7a-テトラヒドロインデン 引火点38°C、沸点160°C、発火点370°C 危険有害反応可能性: 特別な反応性は報告されていない (東京化成工業SDS) 第4類第二石油類	
19	一般	4-645	アセナフテン	2,005	CAS 83-32-9	沸点279°C、融点94°C 危険有害反応可能性: 特別な反応性は報告されていない (東京化成工業SDS) 引火点 135°C (o.c.)、沸点、279°C、発火点 > 450 °C 危険有害反応可能性: 粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉じん爆発の可能性がある (職場のあんぜんサイトSDS)	
20	一般	4-1943	ビフェニル-2-イル=ジフェニル=ホスファートを主成分(50%以上)とする、ビフェニル-2-イル=ジフェニル=ホスファート、ビス(ビフェニル-2-イル)=フェニル=ホスファート、トリフェニル=ホスファート及びトリス(ビフェニル-2-イル)=ホスファートの混合物	1,000未満	CAS 1204225-72-8	物質の構造等を特定できず	物質の構造等を特定できず

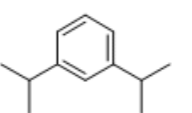
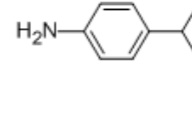
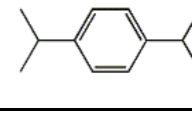
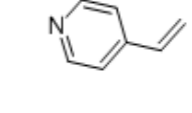
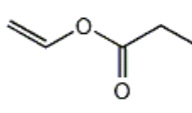
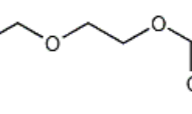
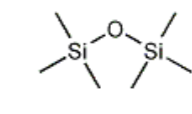
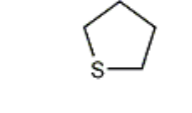
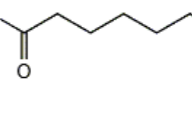
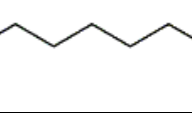
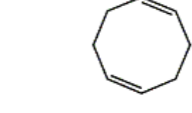
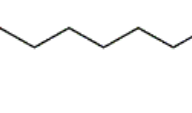
文献調査(一般化学物質等の製造・輸入数量):調査該当22物質

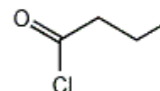
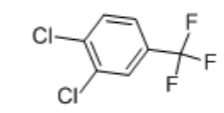
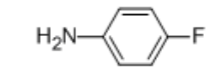
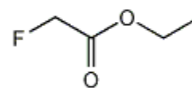
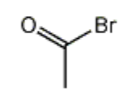
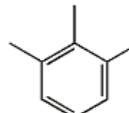
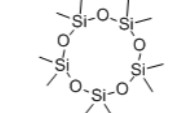
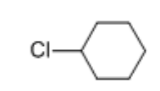
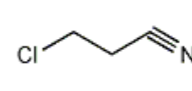
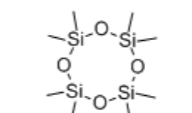
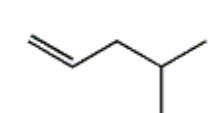
番号	種別	官報公示整理番号	名称	製造・輸入量(t)	CAS	性状等	備考(構造式)
21	一般	5-465	2-メトキシカルボニルアミノベンゾイミダゾール	1,000未満	CAS 10605-21-7	融点302~307°C(分解) 危険有害反応可能性:強酸化剤と接触すると発火の危険性がある (和光純薬SDS) 激しく加熱すると燃焼する (職場のあんぜんサイトSDS)	
22	一般	5-5540	2,2-ジメチル-2,3-ジヒドロ-7-ベンゾ[b]フラニル=メチルカルバマート	1,000未満	CAS 1563-66-2	別名:カルボフラン 沸点150°C(分解)、融点148~154°C 危険有害反応可能性:強酸化剤と接触すると発火の危険性がある (和光純薬SDS)	

文献調査の結果	No	再/新	平成23年度 GHS分類結果							100度以下 発火点 (度)	-20度以下 引火点 (度)	40度以下 沸点 (度)	示性式又は構造式	分子式	選定根拠	
			ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報							分類根拠・問題点
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	1	再分類	23B5507	o-トルイジン	95-53-4	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点85°C [密閉式](Merck (14th, 2006))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	482°C (900° F) (HSDB(2011))	85°C (CC) (Merck (14th, 2006))	200°C (ICSC(2009))		C7H9N	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類水溶性液体	2	再分類	23B5509	エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート	110-49-6	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点44°C [密閉式](IMDG (2010))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。なお、UNRTDG(UN1189)でクラス3、PGIIIに該当する。	380°C (ICSC (2003))	44°C (cc)(IMDG (2010))	145°C (Merck (14th, 2006))		C5H10O3	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類水溶性液体	3	再分類	23B5511	エチレンイミン	151-56-4	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点-11°C [密閉式](HSDB (2006))は < 23°C であり、かつ、初留点55°C ((ホンメル (1991))は >35°C であることから、区分2に該当する。	322°C (危険物DB(第2版,1993))	-11°C (cc)(HSDB (2006))	56-57°C (Merck (14th, 2006))		C2H5N	・試験で爆発性の反応を示さない ・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
						自己反応性化学品 タイプG	—	—	—	自己反応性に関わる原子団(歪みのある環)を含むが、一般の流通商品は安定剤が添加されてUNRTDG(UN No.1185)クラス6.1副次分類3PG IでありタイプGとなる。また、純品は海上輸送が禁止されており、「タイプA」と推定される。						
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	4	再分類	23B5512	インデン	95-13-6	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点は、51°C [密閉式](GESTIS (Access on Aug. 2011))、58°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Aug. 2011))および78.33°C [密閉式](ACGIH (2008))であり、そのうち安全性を考慮して低い引火点を採用し、本物質の引火点は ≥ 23°C かつ ≤60°C であると判定して区分3とした。	517°C (厚労省報告インデンのラットを用いた終口投与による急性毒性試験)	51°C (cc)(GESTIS (Access on Aug. 2011))	181.6°C (760mmHg) (Merck (14th, 2006))		C9H8	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	5	再分類	23B5513	ジメチルカルバモイル=クロリド	79-44-7	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点82°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (2011))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	410°C (ホンメル (1996))	82°C (cc)(MSDS (Sigma-Aldrich) (2011))	167°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))		C3H6ClNO	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
消防法では該当なし	6	再分類	23B5515	三塩化チタン	7705-07-9	自然発火性固体 区分1	炎	危険	空気に触れると自然発火	自然発火性を有し(The dry powder is pyrophoric in air. (Merck(14th, 2006))かつ UNRTDG(UN2441)クラス4.2.PG I に分類されており区分1とした。	乾燥した粉末は空气中で自然発火性である。(Merck(14th, 2006))	データなし	960°C (CRC(91st, 2010))		Cl3Ti	平成20年度の調査で第3類第一種相当の危険性が確認されているが、生産量が少なく危険性に追加せず
						水反応可燃性化学品 区分1	炎	危険	水に触れると自然発火するおそれのある可燃性又は引火性ガスを発生	金属(Ti)を含み「Very reactive and readily dissociated by moisture in air.」(Merck(14th, 2006))という情報および「湿気または水と接触する場合非常に大きな発熱を伴って分解する。その発熱により自然発火し、腐食性の塩化水素(気体)を生ずる。」(ホンメル(1996))という情報により区分1とした。(ハープルブック2.12.2注記1)						
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	7	再分類	23B5518	1,3-ジクロロプロパン-2-オール	96-23-1	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点は86°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich)(2011))、74°C [開放式](NFA (14th, 2010)、CRC (91st, 2010)、ICSC (2008)、HSDB (2003))および88°C [方式不明](Ullmanns(E) (6th, 2003))であり、これらはいずれも > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	74°C (cc) (CRC (91st, 2010))	174.3°C (Merck (14th, 2006))		C3H6Cl2O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類水溶性液体	8	再分類	23B5520	アクリル酸2-(ジメチルアミノ)エチル	2439-35-2	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点61.7~68°C [密閉式](SIDS (2003))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	209°C (1013 hPa) (SIDS (2003))	61.7°C (CC) (SIDS (2003))	172.5°C (SIDS (2003))		C7H13NO2	・試験で爆発性の反応を示さない ・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
						自己反応性化学品 タイプG	—	—	—	自己反応性に関わる原子団(不飽和結合、アクリル酸)を含むが、一般流通品はUNRTDG(16th, 2009)UN3302クラス6.1で、ハイドロキノン誘導体などで安定化されている(IMDG (2010)) (例:ヒドロキノンモノメチルエーテル(CERI/ハザードデータ集 (2001)))ためタイプGである。						
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	9	再分類	23B5521	アクリル酸メチル	96-33-3	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点-3°C [密閉式](Ullmanns(E) (6th, 2003))は < 23°C であり、かつ、初留点80.3°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))は >35°C であることから、区分2に該当する。国連危険物輸送動告では安定剤入りのものがクラス3、容器等級II (国連番号1919)である。	468°C (CRC (91st, 2010))	-3°C (CC) (Ullmanns(E) (6th, 2003))	80.7°C (Merck (14th, 2006))		C4H6O2	・試験で爆発性の反応を示さない ・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
						自己反応性化学品 タイプG	—	—	—	自己反応性に関わる原子団(不飽和結合)を含むが、一般流通品は安定剤を含みUNRTDG(UN1919)クラス3でありタイプGとなる。						

文献調査(GHS)：調査該当100物質

文献調査の結果	No	再/新	平成23年度 GHS分類結果							100度以下 発火点 (度)	-20度以下 引火点 (度)	40度以下 沸点 (度)	示性式又は構造式	分子式	選定根拠	
			ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報							分類根拠・問題点
第4類引火性液体、第2石油類水溶性液体	10	再分類	23B5524	エチレンジアミン	107-15-3	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点34℃[密閉式](ICSC(2003))は ≥ 23℃ かつ ≤ 60℃ であることから、区分3に該当する。	390℃ (Ullmanns(E)(6th, 2003))	34℃(CC) (ICSC(2003))	116-117℃ (Merck(14th, 2006))		C2H8N2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	11	再分類	23B5530	クメン	98-82-8	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点31℃[密閉式](ICSC(2000))は ≥ 23℃ かつ ≤ 60℃ であることから、区分3に該当する。なお、UNRTDG(UN1918)でクラス3PGⅢである。	420℃ (ICSC(2000))	31℃(CC) (ICSC(2000))	152.4℃ (HSDB(2010))		C9H12	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第1類酸化性固体、亜硝酸塩類	12	再分類	23B5575	亜硝酸銀	7783-99-5	酸化性固体 区分2	円上の炎	危険	火災助長のおそれ:酸化性物質	酸素を含む無機化合物で、この酸素が炭素と水素以外の元素(N・Ag)と結合しており、MSDS(Sigma-Aldrich)(Access on Sept. 2011)では酸化性と分類されており、このMSDSでUNRTDG(UN2627(NITRITES, INORGANIC, N.O.S.))でクラス5.1、PGⅡに分類されているため、区分2として分類した。	データなし	データなし	データなし		AgNO2	・消防法とGHS分類が同じ ・第1類酸化性固体
第1類酸化性固体、亜硝酸塩類	13	再分類	23B5576	亜硝酸ナトリウム	7632-00-0	酸化性固体 区分3	円上の炎	警告	火災助長のおそれ:酸化性物質	UNRTDG(UN1500)クラス5.1(副次危険6.1)、PGⅢに分類されており、区分3とした。	データなし	データなし	>320 (decompose) °C(CRC(91st, 2010))		NNaO2	・消防法とGHS分類が同じ ・第1類酸化性固体
第1類酸化性固体、亜硝酸塩類	14	再分類	23B5577	亜硝酸カリウム	7758-09-0	酸化性固体 区分2	円上の炎	危険	火災助長のおそれ:酸化性物質	UNRTDG(UN1488)クラス5.1、PGⅡであるため、区分2とした。	データなし	データなし	537℃ (exp)(CRC(91st, 2010))		KNO2	・消防法とGHS分類が同じ ・第1類酸化性固体
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	15	新規	23A5004	1-ノナナル	124-19-6	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点75℃(密閉式)[GESTIS(Access on Nov. 2010)]は > 60℃ かつ < 93℃ であるため、区分4とした。	200℃ (GESTIS(Access on Nov. 2010))	75℃ (GESTIS(Access on Nov. 2010))	191℃ (Ullmanns(E)(2003))		C9H18O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	16	新規	23A5006	1-イソシアナートブタン	111-36-4	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点19℃[密閉式][ホンメル(1996)]は < 23℃ であり、かつ、初留点116℃[Ullmanns(E)(2003)]は > 35℃ であることから、区分2に該当する。	425℃(ホンメル(1996))	19℃(ホンメル(1996))	116℃ (Ullmanns(E)(2003))		C5H9NO	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	17	新規	23A5007	3,3-ジメチル-2-ブタン	75-97-8	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点3℃[密閉式](GESTIS(Access on Dec. 2010))は < 23℃ かつ、初留点106.2℃(Merck(14th, 2006))は > 35℃ であることから、区分2である。	520℃ (GESTIS(Access on Dec. 2010))	3℃(CC) (GESTIS(Access on Dec. 2010))	106.2℃ (Merck(14th, 2006))		C6H12O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類水溶性液体	18	新規	23A5008	イソブチルアミン	78-81-9	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点-9℃(密閉式)(ICSC(2005))は < 23℃ であり、初留点68℃は > 35℃ であるため区分2と判断した。	378℃ (Lide(90th, 2009))	-9℃ (CC)(ICSC(2005))	68℃ (Ullmanns(E)(6th, 2003))		C4H11N	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	19	新規	23A5009	2-エチルフェノール	90-00-6	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点78℃[不明](Gangolli(2nd,1999))は、測定法が不明であるが、所定の密閉式測定法でも > 60℃ かつ ≤ 93℃ であると判断できることから区分4とした。	データなし	78℃ (Gangolli(2nd, 1999))	204.52℃ (Merck(14th, 2006))		C8H10O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	20	新規	23A5010	N-エチル-2-メチルアニリン	94-68-8	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点89℃[密閉式](IUCLID(2000))は > 60℃ かつ ≤ 93℃ であることから、区分4に該当する。	400℃ (IUCLID(2000))	89℃ (IUCLID(2000))	218-219℃ (Ullmanns(E)(6th, 2003))		C9H13N	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	21	新規	23A5011	トリクロロフェニルシラン	98-13-5	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点86℃[密閉式](GESTIS(Access on Dec. 2010))は > 60℃ かつ ≤ 93℃ であることから、区分4に該当する。	>400℃ (HSDB(2010))	86℃ (GESTIS(Access on Dec. 2010))	201℃ (Howard(1997))		C6H5Cl3Si	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当

文献調査の結果	No	再/新	平成23年度 GHS分類結果							100度以下 発火点 (度)	-20度以下 引火点 (度)	40度以下 沸点 (度)	示性式又は構造式	分子式	選定根拠	
			ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報							分類根拠・問題点
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	22	新規	23A5012	1,3-ジイソプロピルベンゼン	99-62-7	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点76°C [不明](Lange (16th, 2005))は測定方法が不明であるが、所定の密閉式測定方法でも > 60°C かつ ≤93°Cと判断できることから、区分4に該当する。	449°C (GESTIS (Access on Dec. 2010))	76°C (Lange (16th, 2005))	203.18°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))		C12H18	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	23	新規	23A5013	4-イソプロピルアニリン	99-88-7	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点92°C [密閉式](NITE総合検索 (Access on Dec. 2010)(アクロス試薬カタログ))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	540°C at 1013 hPa (IUCLID (2000))	92°C (CC) (NITE総合検索 (Access on Dec. 2010)(アクロス試薬カタログ))	225°C (SRC Phys Prop (Access on Dec. 2010))		C9H13N	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	24	新規	23A5014	1,4-ジイソプロピルベンゼン	100-18-5	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点76°C [密閉式](GESTIS(Access on Dec. 2010))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	76.7°C (NITE総合検索 (Access on Dec. 2010))	76°C (GESTIS(Access on Dec. 2010))	210.35°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))		C12H18	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	25	新規	23A5015	4-ビニルピリジン	100-43-6	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点50°C [密閉式](GESTIS(Access on Jan. 2011))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。	440°C (NITE総合検索 (Access on Jan. 2011))	50°C (GESTIS(Access on Jan. 2011))	121°C (Howard (1997))		C7H7N	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	26	新規	23A5016	ビニル=プロピオナート	105-38-4	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点4.5°C [密閉式](IUCLID(2000))は < 23°C であり、かつ、初留点95°C (Ullmanns(E)(6th, 2003))は > 35°C であることから、区分2に該当する。	360°C (Ullmanns(E)(6th, 2003))	4.5°C (IUCLID(2000))	95°C (Ullmanns(E)(6th, 2003))		C5H8O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	27	新規	23A5017	2-エトキシエチル=アクリレート	106-74-1	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点66°C [密閉式](Sigma-Aldrich (Access on Feb. 2011))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	66°C (CC) (SigmaAldrich(Access on 2. 2011))	174°C (Lide (90th, 2009))		C7H12O3	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	28	新規	23A5018	ヘキサメチルジシロキサン	107-46-0	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点-1°Cは < 23°C であり、かつ、初留点100°Cは > 35°C であることから、区分2に該当する。	310°C (IUCLID(2000))	-1°C (CC) (Bretherick (2007))	100°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))		C6H18OSi2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	29	新規	23A5019	テトラヒドロチオフェン	110-01-0	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点13°C [密閉式](IMDG (2008))は < 23°C であり、かつ、初留点119-121°C (Merck Index)は > 35°C であることから、区分2に該当する。なお、UNRTDG (UN2412)でクラス3PG IIである。	200°C (ホルメル (1996))	13°C (CC) (IMDG (2008))	119-121°C (Merck 14th (2006))		C4H8S	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	30	新規	23A5020	メチル=オクタノアート	111-11-5	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点69.0°C [密閉式](Sigma-Aldrich(Access on Feb. 2011))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	69.0°C (Sigma-Aldrich(Access on Feb. 2011))	192.9°C (HSDB (2003))		C9H18O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	31	新規	23A5021	ヘプタナール	111-71-7	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点48°C [密閉式](HSDB(2009))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。なお、UNRTDG(3056)でクラス3PG IIIである。	250°C (HSDB(2009))	48°C CC (HSDB(2009))	152.8°C (Merck(14th, 2006))		C7H14O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	32	新規	23A5022	シクロオクタ-1,5-ジエン	111-78-4	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点33°C [密閉式] ホンメル (1996))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。	270°C (ホンメル (1996))	33°C CC (ホンメル (1996))	150.8°C (Howard (1997))		C8H12	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	33	新規	23A5023	1-クロロオクタン	111-85-3	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点63°C [密閉式](GESTIS(Access on Jan. 2011))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	222°C (GESTIS(Access on Jan. 2011))	63°C (GESTIS(Access on Jan. 2011))	181.5°C (Howard(1997))		C8H17Cl	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当

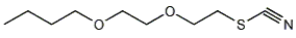
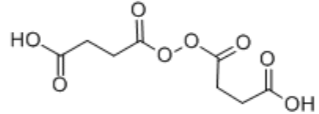
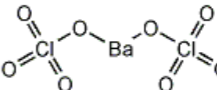
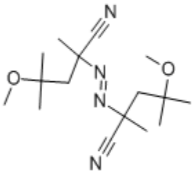
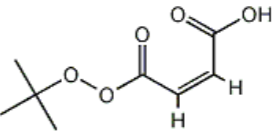
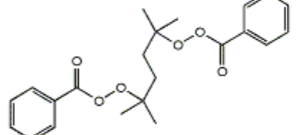
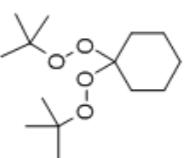
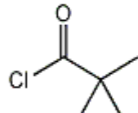
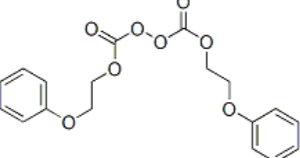
文献調査の結果	No	再/新	平成23年度 GHS分類結果							100度以下 発火点 (度)	-20度以下 引火点 (度)	40度以下 沸点 (度)	示性式又は構造式	分子式	選定根拠	
			ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報							分類根拠・問題点
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	34	新規	23A5024	ブチリル=クロリド	141-75-3	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点18°C [密閉式](Gangolli (2nd, 1999))は < 23°C であり、かつ、初留点101°C(ホンメル(1996))は > 35°C であることから、区分2に該当する。なお、UNRTDG(UN2353)クラス3副次危険8PG II である。	データなし	18°C (CC) (Gangolli (2nd, 1999))	102°C(ホンメル(1996))		C4H7ClO	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	35	新規	23A5025	1,2-ジクロロ-4-(トリフルオロメチル)ベンゼン	328-84-7	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点72°C [密閉式](IUCILID(2000))は > 60°C かつ ≤ 93°C であることから、区分4に該当する。	>600°C (IUCILID(2000))	72°C (CC) (IUCILID(2000))	173.5°C (Lide (90th, 2009))		C7H3Cl2F3	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	36	新規	23A5026	4-フルオロアニリン	371-40-4	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点73°C [密閉式](溶剤ポケットブック(1994))は > 60°C かつ ≤ 93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	73°C(CC) (溶剤ポケットブック(1994))	182°C (Lide (90th, 2009))		C6H6FN	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	37	新規	23A5027	エチル=2-フルオロアセタート	459-72-3	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点30°C [不明](Lange (16th, 2005)) は測定法が不明であるが所定の密閉式測定法でも ≥ 23°C かつ ≤ 60°C であると判断できるため、区分3とした。	データなし	30°C (Lange (16th, 2005))	データなし		C4H7FO2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	38	新規	23A5028	アセチルブロマイド	506-96-7	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点は75°C [不明](ICSC(1997))は測定法は不明であるが、所定の密閉式測定法でも93°C以下であると判断できるので区分4とした。なお密閉式測定法では>71°C(ホンメル(1996))という情報がある。	データなし	>71°C (CC) (ホンメル(1996))	76°C (Merck (14th, 2006))		C2H3BrO	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	39	新規	23A5029	1,2,3-トリメチルベンゼン	526-73-8	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点44°C [密閉式](HSDB (2008))は ≥ 23°C かつ ≤ 60°C であることから、区分3に該当する。	470°C (Sax (11th, 2004))	44°C (CC) (HSDB (2008))	176.12°C (HSDB (2008))		C9H12	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	40	新規	23A5030	2,2,4,4,6,6,8,8,10,10-デカメチルシクロペンタシロキサン	541-02-6	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点77°C [密閉式](Merck MSDS (2005))は > 60°C かつ ≤ 93°C であり、区分4に該当する。	450°C (Merck MSDS (2005))	77°C(CC) (Merck MSDS (2005))	210°C (Merck (14th, 2008))		C10H30O5Si5	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	41	新規	23A5031	クロロシクロヘキサン	542-18-7	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点32°C [密閉式](GESTIS(Access on Feb. 2011))は ≥ 23°C かつ ≤ 60°C であることから、区分3に該当する。	290°C (HSDB (2002))	32°C (CC) (GESTIS(Access on Feb. 2011))	142°C (Merck (14th, 2006))		C6H11Cl	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	42	新規	23A5032	β-クロロプロピオニトリル	542-76-7	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点76°C [密閉式](Sax (11th, 2004))は > 60°C かつ ≤ 93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	76°C (CC)(Sax (11th, 2004))	176°C (Merck (14th, 2006))		C3H4ClN	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	43	新規	23A5033	2,2,4,4,6,6,8,8-オクタメチルシクロテトラシロキサン	556-67-2	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点51°C [密閉式](IUCILID (2000))は ≥ 23°C かつ ≤ 60°C であることから、区分3に該当する。	データなし	51°C (CC) (IUCILID (2000))	175°C (Merck (14th, 2006))		C8H24O4Si4	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	44	新規	23A5034	4-メチル-1-ペンテン	691-37-2	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点-7°C [密閉式](Bretherick (7th, 2007))は < 23°C であり、かつ、初留点53.9°C(Lide (90th, 2009))は > 35°C であることから、区分2に該当する。なお、UNRTDG(UN2288)クラス3PG II である。	300°C (Ullm)	-7°C (CC) (Bretherick (7th, 2007))	53.86°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))		C6H12	・試験で爆発性の反応を示さない ・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
						自己反応性化学 品 タイプG	—	—	—	自己反応性の原子団(不飽和結合)を含むが、UNRTDG(UN2288)でクラス3となっており、上位の自己反応性(クラス4.1、PG I)に該当しないのでタイプGになると判断した。						

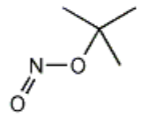
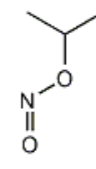

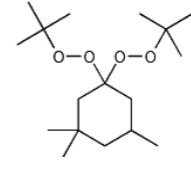
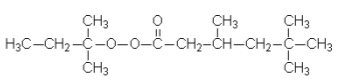
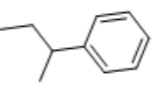
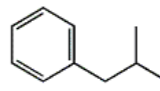
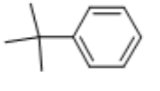
文献調査(GHS) : 調査該当100物質

文献調査の結果	No	再/新	平成23年度 GHS分類結果							100度以下 発火点 (度)	-20度以下 引火点 (度)	40度以下 沸点 (度)	示性式又は構造式	分子式	選定根拠	
			ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報							分類根拠・問題点
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	45	新規	23A5035	2-エタン-1-イルヘキサノイル=クロリド	760-67-8	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点69°C [密閉式](Lange(16th,2005))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	225°C (ホンメル(1996))	69°C (CC) (Lange(16th, 2005))	67°C (Lide(90th, 2009))		C8H15ClO	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	46	新規	23A5036	エチル=3-エトキシプロパノアート	763-69-9	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点59°C [密閉式](IUCILID (2000))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。	377°C (Ullmanns(E)(2003))	59°C (CC) (IUCILID (2000))	165°C (IUCILID (2000))		C7H14O3	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	47	新規	23A5037	アクリル酸クロライド	814-68-6	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点18°C [密閉式](Bretherick (7th, 2007))は < 23°C であり、かつ、初留点75°C(Ullmanns(E)(6th, 2003))は >35°C であることから、区分2に該当する。	データなし	18°C (CC) (Bretherick (7th, 2007))	75°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))		C3H3ClO	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	48	新規	23A5038	6-メチル-2-ヘプタノン	928-68-7	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点51.5°C [密閉式](IUCILID(2000))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。	360°C (IUCILID(2000))	51.5°C(CC) (IUCILID(2000))	167°C (SRC PhysProp(Access on May, 2011))		C8H16O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類水溶性液体	49	新規	23A5039	1-プロポキシ-2-プロパノール	1569-01-3	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点48°C [密閉式](GESTIS(Access on May, 2011))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。	252°C (MSDS(Sigma-Aldrich)(Access on May, 2011))	48°C (CC) (GESTIS(Access on May, 2011))	150°C (Lide(90th,2009))		C6H14O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	50	新規	23A5040	3,5,5-トリメチルヘキサナール	5435-64-3	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点45°C [密閉式](IUCILID (2000))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。	245°C (IUCILID (2000))	45°C (CC) (IUCILID (2000))	173°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))		C9H18O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	51	新規	23A5041	ヒドロキシ酢酸ブチル	7397-62-8	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点75°C [密閉式](Ullmanns(E) (6th, 2003))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	404°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))	75°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))	178-186°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))		C6H12O3	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	52	新規	23A5042	1-クロロ-3,3-ジメチル-2-ブタン	13547-70-1	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点67°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (2011))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	516°C (IUCILID (2000))	67°C (CC) (MSDS (Sigma-Aldrich) (2011))	170-173°C (GESTIS (Access on May 2011))		C6H11ClO	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	53	新規	23A5043	2-エチルヘキシル=ニトラート	27247-96-7	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点72°C [密閉式](IUCILID (2000))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	186-190°C (IUCILID (2000))	72°C (CC) (IUCILID (2000))	194°C (IUCILID (2000))		C8H17NO3	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	54	新規	23A5047	2,4,4-トリメチルペンタ-2-エン	107-40-4	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点2°C [開放式](HSDB (2002))および UNRTDG (UN2050)で-18~21°C[密閉式](IMDG(2008))というデータがある。また、沸点が104.9°C (Howard (1997))であり、引火点<23および初留点>35°Cのため区分2に該当する。なお、UNRTDG (UN2050)クラス3PG IIである。	305°C (HSDB (2002))	2°C (OC) (HSDB (2002))	104.9°C (Howard (1997))		C8H16	・試験で爆発性の反応を示さない ・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
						自己反応性化学 品 タイプG	—	—	—	自己反応性に関わる原子団(不飽和二重結合)を含むが、UNRTDG(UN2050)クラス3PG II であり上位の自己反応性に該当しないためタイプGである。						
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	55	新規	23A5048	メチル=デカノアート	110-42-9	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点90°C [密閉式](IUCILID (2000))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	約 90°C (CC) (IUCILID (2000))	224°C (Howard (1997))		C11H22O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当

文献調査の結果	No	再/新	平成23年度 GHS分類結果							100度以下 発火点 (度)	-20度以下 引火点 (度)	40度以下 沸点 (度)	示性式又は構造式	分子式	選定根拠	
			ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報							分類根拠・問題点
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	56	新規	23A5049	ギ酸イソアミル	110-45-2	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点22°C [密閉式](GESTS (Access on May, 2011); ホンメル(1996))は23°C未満で初溜点123.5°C(Howard(1997))は>35°Cであることから、区分2に該当する。なお、UNRTDG(UN1109ギ酸アミル)はクラス3PGⅢであり、引火点が ≥ 23°C かつ ≤60°Cのものは区分3となる。	320°C(ホンメル(1996))	22°C(CC)(GESTS (Access on May, 2011))	123.5°C(Howard(1997))		C6H12O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	57	新規	23A5051	10-ウンデセナール	112-45-8	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点93°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich)(2011))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	93°C(CC)(MSDS (Sigma-Aldrich)(2011))	235°C(有機化合物辞典(1985))		C11H20O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	58	新規	23A5055	2,3,5-トリメチルピラジン	14667-55-1	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点54°C [密閉式](MSDS Sigma-Aldrich)(2011))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。	データなし	54°C(CC)(MSDS Sigma-Aldrich)(2011))	87.35°C(CRC(90th, 2009))		C7H9N2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	59	新規	23A5060	1-オクテン-3-オール	3391-86-4	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	68°C[密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on June, 2011))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	61°C(測定法不明)(Gangolli(2nd, 1999))	175-175.2°C(Ullmanns(E)(2003))		C8H16O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	60	新規	23A5062	2,4-ジフルオロ-1-ニトロベンゼン	446-35-5	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点91°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	480°C(BUA 252(2004))	91°C(CC)(MSDS (Sigma-Aldrich))	207°C(CRC(91st, 2010))		C6H3F2NO2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	61	新規	23A5067	α-アンゲリカラクトン	591-12-8	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点68°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich))は > 60°C かつ ≤93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	68°C(CC)(MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on June, 2011))	56°C(Merck(14th, 2006))		C5H6O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体	62	新規	23A5068	L-カルボン	6485-40-1	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	測定法が不明であるが、88°C(Lange(16th, 2005))、92°C(GESTIS(Access on June, 2011))というデータがあり、所定の試験において > 60°C かつ ≤93°Cと推定されるので、区分4と判定した。	データなし	88°C(不明)(Lange(16th, 2005))	230°C(Ullmanns(E)(6th, 2003))		C14H14O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	63	新規	23A5073	シス-3-ヘキセノール	928-96-1	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点54°C [密閉式](NFPA(13th, 2006))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。	データなし	54°C(CC)(NFPA(13Ed, 2006))	157°C(CRC(91st, 2010))		C6H12O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	64	新規	23A5076	クロロ酢酸イソプロピル	105-48-6	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点56°C [密閉式](IUCILID(2000))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。なお、UNRTDG(UN2947)クラス3PGⅢである。	415°C(IUCILID(2000))	56°C(CC)(IUCILID(2000))	150.5°C(CRC(91st, 2010))		C5H9ClO2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第5類自己反応性物質、有機過酸化化物	65	新規	23A5078	2,5-ジメチル-2,5-ジ-(ターシャリ-ブチルパーオキシ)-ヘキシン-3	1068-27-5	引火性液体 区分3 有機過酸化化物 タイプB	炎 爆弾の爆発と炎	警告 危険	引火性液体及び蒸気 熱すると火災又は爆発のおそれ	引火点56°C [密閉式](15710の化学品(2010))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。 UNRTDG(UN3101)クラス5.2では100-80%のものをタイプBとしている。	330°C(15710の化学品(2010))	56°C(CC)(15710の化学品(2010))	65-67°C(CESAR(2008))		C16H30O4	・消防法とGHS分類が同じ ・第5類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	66	新規	23A5079	クロロアセトニトリル	107-14-2	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点56°C [密閉式]は ≥ 23°C かつ ≤60°C (IMDG(2010))であることから、区分3に該当する。	データなし	56°C(CC)(IMDG(2010))	124-126°C(Ullmanns(E)(6th, 2003))		ClCH2CN	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	67	新規	23A5080	亜硝酸イソペンチル	110-46-3	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点-20°C [密閉式](IMDG(2010))は < 23°C であり、かつ、初溜点97-99°C(Merck(14th, 2006))は > 35°C であることから、区分2に該当する。	210°C(ホンメル(1996))	-20°C(CC)(IMDG(2010))	97-99°C(Merck(14th, 2006))		C5H11NO2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当

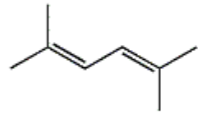
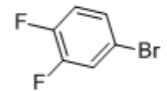
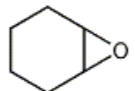

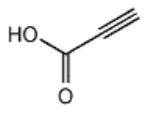
文献調査(GHS) : 調査該当100物質

文献調査の結果	No	再/新	平成23年度 GHS分類結果							100度以下 発火点 (度)	-20度以下 引火点 (度)	40度以下 沸点 (度)	示性式又は構造式	分子式	選定根拠	
			ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報							分類根拠・問題点
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	68	新規	23A5081	2-プトキシ-2'-チオシアノ-ジエチルエーテル	112-56-1	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点51.67°C(125°F)[密閉式](HSDB(2002))は ≥ 23°C かつ ≤ 60°C であることから、区分3に該当する。	データなし	52°C(CC)(HSDB(2002))	120-125°C(0.25mmHg)(Merck(14th, 2006))		C9H17NO2S	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第5類自己反応性物質、有機過酸化物	69	新規	23A5084	ジコハク酸ペルオキシド	123-23-9	有機過酸化物 タイプB	爆弾の爆発と炎	危険	熱すると火災又は爆発のおそれ	UNRTDG(UN3102)クラス5.2で100-72%のものをタイプBとする。	データなし	>110°C(CC)(15911の化学品(2011))	データなし		C8H10O8	・消防法とGHS分類が同じ ・第5類該当
第1類酸化性固体、過塩素酸塩類	70	新規	23A5087	過塩素酸バリウム	13465-95-7	酸化性固体 区分2	円上の炎	危険	火災助長のおそれ:酸化性物質	酸化性物質(An oxidizer.(Sax(11th, 2004)))であり、UNRTDG(UN1447)クラス5.1PG II であるため区分2とした。	データなし	21°C(MSDS(Sigma-Aldrich)(Access on July, 2011))	データなし		BaCl2O8	・消防法とGHS分類が同じ ・第1類該当
第5類自己反応性物質、アゾ化合物	71	新規	23A5091	2,2'-アゾビス(4-メチル-2,4-ジメチルバレロニトリル)	15545-97-8	自己反応性化学品 タイプD	炎	危険	熱すると火災のおそれ	UNRTDG(UN3236)クラス4.1で(自己反応性物質D(固体)(温度管理が必要なもの))と分類されている。	データなし	データなし	データなし		C16H28N4O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第5類該当
第5類自己反応性物質、有機過酸化物	72	新規	23A5096	ターシャリーブチルモノパーオキシマレエート	1931-62-0	有機過酸化物 タイプB	爆弾の爆発と炎	危険	熱すると火災又は爆発のおそれ	UNRTDG(UN3102(有機過酸化物B)(濃度>52-100%))において、クラス5.2のタイプBに分類されている。(UNRTDG(16th, 2009))	データなし	データなし	データなし		C8H12O5	・消防法とGHS分類が同じ ・第5類該当
第5類自己反応性物質、有機過酸化物	73	新規	23A5099	2,5-ジメチル-2,5-ジ-(ベンゾイルパーオキシ)ヘキサン	2618-77-1	有機過酸化物 タイプB	爆弾の爆発と炎	危険	熱すると火災又は爆発のおそれ	UNRTDG(UN3102(濃度が82質量%を超えるもの))クラス5.2のタイプBに分類されている。(UNRTDG(16th, 2009))	497°C(日油株式会社(Access on July, 2011))	>110°C(CC)(日油株式会社(Access on July, 2011))	データなし		C22H26O6	・消防法とGHS分類が同じ ・第5類該当
第5類自己反応性物質、有機過酸化物	74	新規	23A5103	1,1-ビス(t-ブチルパーオキシ)シクロヘキサン	3006-86-8	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点68.3°C[密閉式](MSDS(Sigma-Aldrich),200)は > 60°C かつ ≤ 93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	68.3°C(CC)(80wt% in odorless mineral spirits)(MSDS(Sigma-Aldrich)(2001))	52-54°C(50% solution in mineral oil)(NITE総合検索(Access on July, 2011)(アクロスWeb試薬カタログ(MSDS)))		C14H28O4	・消防法とGHS分類が同じ ・第5類該当
						有機過酸化物 タイプB	爆弾の爆発と炎	危険	熱すると火災又は爆発のおそれ	UNRTDG(UN3101)でクラス 5.2(有機過酸化物B(液体))と分類されている。						
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	75	新規	23A5105	2,2-ジメチルプロパノイルクロライド	3282-30-2	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点13°C[密閉式](SIDS(2011))は < 23°C であり、かつ、初留点107°C(CRC(2010))は > 35°C であることから、区分2に該当する。	455°C(SIDS(2011)) 455°C(国立医薬品食品衛生研究所 平成20年3月)	19°C(CC)(ホンメル(1996)) 14°C(国立医薬品食品衛生研究所 平成20年3月)	107°C(CRC(2010)) 107°C(国立医薬品食品衛生研究所 平成20年3月)		C5H9ClO	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第5類自己反応性物質、有機過酸化物	76	新規	23A5109	ジ(2-フェノキシエチル)パーオキシジカーボネート	41935-39-1	有機過酸化物 タイプB	爆弾の爆発と炎	危険	熱すると火災又は爆発のおそれ	濃度 >85-100%のものが、UNRTDG(UN3102)クラス 5.2有機過酸化物Bに分類されている。	データなし	207.8°C	473.9°C		C18H18O8	・消防法とGHS分類が同じ ・第5類該当

文献調査の結果	No	再/新	平成23年度 GHS分類結果							100度以下 発火点 (度)	-20度以下 引火点 (度)	40度以下 沸点 (度)	示性式又は構造式	分子式	選定根拠	
			ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報							分類根拠・問題点
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	77	新規	23A5110	亜硝酸ターシャリーブチル	540-80-7	引火性液体区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点-13°C [密閉式](Bretherick (7th, 2007))は < 23°C であり、かつ、初留点63°C (Merck (14th, 2006))は > 35°C であることから、区分2に該当する。なお、UNRTDG(UN2351)クラス3、PG IIに分類されている。	データなし	-13°C (Bretherick (7th, 2007))	63°C (Merck (14th, 2006))		C4H9NO2	・試験で爆発性の反応を示さない ・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
						自己反応性化学製品タイプG				爆発性の原子団(N-O)を含むが、市販品は安定剤を含みUNRTDG(UN2351)クラス3に分類されているため、タイプGと判断した。なお、純品は不安定な物質 (Many alkyl nitrites are thermally unstable and may readily decompose or explode on heating. Methyl nitrite explodes more violently than ethyl nitrite. Lower alkyl nitrites have been known to decompose and burst the container, even in refrigerated storage. (Bretherick (7th, 2007)))であり細区分できない。						
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	78	新規	23A5111	亜硝酸イソプロピル	541-42-4	引火性液体区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点 < 10°C [密閉式](Bretherick(7th, 2007))は < 23°C であり、かつ、初留点39°C (Merck (14th, 2006))は > 35°C であることから、区分2に該当する。	データなし	< 10°C (Bretherick (7th, 2007))	39-40°C (745 mmHg) (Merck (14th, 2006))		C3H7NO2	・試験で爆発性の反応を示さない ・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
						自己反応性化学製品タイプG				爆発性の原子団(N-O)を含むが、市販品は安定剤を含みタイプGと思われる。なお、純品は不安定な物質 (Many alkyl nitrites are thermally unstable and may readily decompose or explode on heating. Methyl nitrite explodes more violently than ethyl nitrite. Lower alkyl nitrites have been known to decompose and burst the container, even in refrigerated storage. (Bretherick (7th, 2007)))であり細区分できない。						
第3類自然発火性物質及び禁水性物質、有機金属化合物	79	新規	23A5112	ジメチル亜鉛	544-97-8	引火性液体区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点-1°C [不明](Lange(16th, 2005))は、測定法が不明であるが所定の密閉式測定法によっても < 23°C であると推定でき、かつ、初留点46°C (Merck(14th, 2006))は > 35°C であることから、区分2に該当する。	< -17.8 °C (BELOW 0 DEG F) (HSDB (2008))	-1°C (不明) (Lange (16th, 2005))	46°C (Merck (14th, 2006))		C2H6Zn	・消防法とGHS分類が同じ ・第3類該当
						自然発火性液体区分1				発火点 < -17.8 (BELOW 0 DEG F) HSDB (2008) であるので区分1とした。なお、UNRTDGでは、以前はUN1370(ジメチル亜鉛)でクラス4.2副次危険4.3PG Iであったが、現在UN3394(有機金属化合物(液体)(自然発火性かつ水反応性のもの))クラス4.2副次危険4.3PG Iに分類されている。(IMDG Amdt.33-06(2006))						
第5類自己反応性物質、有機過酸化物質	80	新規	23A5119	1,1-ビス(tert-ブチルパーオキシ)-3,3,5-トリメチルシクロヘキサン	6731-36-8	有機過酸化物質タイプB	爆弾の爆発と炎	危険	熱すると火災又は爆発のおそれ	UNRTDG (16th, 2009)でUN3101有機過酸化物質B(液体)クラス5.2であるためタイプBとした。	410°C (NITE総合検索 (Access on July, 2011)ACROS-web (アクロス-MSDS))	83°C (CC) (純度 95.0%) (MSDS (Akzo Nobel))	270°C (Lange (16th, 2005))		C17H34O4	・消防法とGHS分類が同じ ・第5類該当
第5類自己反応性物質、有機過酸化物質	81	新規	23A5120	ターシャリーアミルパーオキシ-3,5,5-トリメチルヘキサノエート	68860-54-8	有機過酸化物質タイプD	炎	危険	熱すると火災のおそれ	UNRTDGでUN3105有機過酸化物質D(液体)(UNRTDG (16th, 2009))クラス5.2に分類されているのでタイプDとした。	データなし	99°C (CC) (化薬アクゾ製品情報)	データなし		C14H28O3	・消防法とGHS分類が同じ ・第5類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	83	新規	23A5130	sec-ブチルベンゼン	135-98-8	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点52°C [密閉式](Merck (14th, 2006))は ≥ 23°C かつ ≤ 60°C であることから、区分3に該当する。なお、UNRTDG(UN2709ブチルベンゼン類)はクラス3PG IIIに分類されている。	420°C (788F) (Sax (11th, 2004))	52°C (CC) (Merck (14th, 2006))	173.5°C (Merck (14th, 2006))		C10H14	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	84	新規	23A5131	イソブチルベンゼン	538-93-2	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点55°C [密閉式](NFPA (13th, 2006))は ≥ 23°C かつ ≤ 60°C であることから、区分3に該当する。なお、UNRTDG(UN2709ブチルベンゼン類)はクラス3PG IIIに分類されている。	427°C (CRC (91st, 2010))	55°C (CC) (NFPA (13th, 2006))	170.5°C (Merck (14th, 2006))		C10H14	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	85	新規	23A5132	tert-ブチルベンゼン	98-06-6	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点44°C [密閉式](GESTIS (Access on Aug. 2011))は ≥ 23°C かつ ≤ 60°C であることから、区分3に該当する。なお、UNTRG (UN2709ブチルベンゼン類)クラス3PG IIIに分類されている。	450°C (842F) (Sax (11th, 2004))	44°C (CC) (GESTIS (Access on Aug. 2011))	168.5°C (Merck (14th, 2006))		C10H14	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当

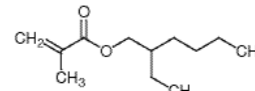
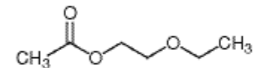
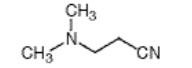
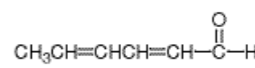
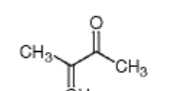
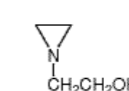
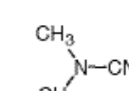
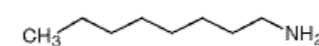
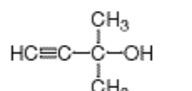
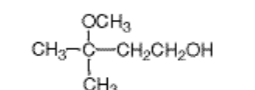
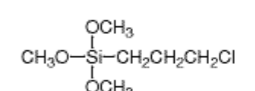
文献調査の結果	No	再/新	平成23年度 GHS分類結果							100度以下 発火点 (度)	-20度以下 引火点 (度)	40度以下 沸点 (度)	示性式又は構造式	分子式	選定根拠	
			ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報							分類根拠・問題点
消防法では該当なし	86	新規	23A5146	アレスリン (1RS, cis, trans- 混合物)	584-79-2	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点66°C [開放式](eChemPortal (INCHEM UK PID)(Access on Oct. 2011))は所定の密閉式試験法ではないが > 60°C かつ ≤93°C であると判断できることから、区分4とした。	データなし	93.0°C (OC) (eChemPortal (IHSNO CCID)(Access on Oct. 2011))	281.5°C (HSDB (2009))		C19H26O3	・第4類該当
第1類酸化性固体、ヨウ素酸塩類	87	新規	23A5153	ヨウ素酸ナトリウム	7681-55-2	酸化性固体 区分2	円上の炎	危険	火災助長のおそれ:酸化性物質	酸素とハロゲン(ヨウ素)を含む無機化合物であるが、有機物と激しく反応する(May react violently with organic matter (Sax (11th, 2004))という情報と(THESE MATERIALS ARE A MODERATE FIRE HAZARD BECAUSE THEY ARE POWERFUL OXIDIZERS. IN CONTACT WITH FLAMMABLE OR EVEN COMBUSTIBLE MATERIALS THEY CAN START FIRES.(HSDB(2002))という情報があり、酸化性と判断した。また、UN1497クラス5.1(混触危険Hb(第2版, 1997))という情報およびMSDS (Sigma-Aldrich)ではUN1497PG IIとして流通しているため区分2とした。	データなし	データなし	データなし		INaO3	・消防法とGHS分類が同じ ・第1類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	88	新規	23A5162	2-メチル-2-ブタノール	75-85-4	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点19°C [密閉式](Merck (14th, 2006))は < 23°C であり、かつ、初留点102.5°C (Merck (14th, 2006))は > 35°C であることから、区分2に該当する。	435°C (Ullmanns(E) (6th, 2003))	19°C(67F) (CC) (Merck(14th, 2006))	102.5°C (765 mmHg) (Merck(14th, 2006))		C5H12O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
消防法では該当なし	89	新規	23A5163	トリフルオロ酢酸	76-05-1	金属腐食性物質 区分1	腐食性	警告	金属腐食のおそれ	IMDGに「highly corrosive to most metals. (IMDG (2010))」という情報により区分1とした。また、「多くの金属を侵して引火性/爆発性気体(水素)を生じる。」(ICSC(J)(2007))、および「この純粋品および濃厚水溶液は多数の金属に腐食作用を及ぼすので、それら金属はこの物質の容器には適さない。」(ホンメル (1996))という情報もある。	データなし	データなし	72.4°C (Merck (14th, 2006))		C2HF3O2	・該当しない
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	90	新規	23A5164	2,3-ジクロロプロペン	78-88-6	引火性液体 区分2 自己反応性化学 品 タイプG	炎 —	危険 —	引火性の高い液体及び蒸気 —	引火点15°C [密閉式](HSDB (2003))は < 23°C であり、かつ、初留点94°C (Howard (1997))は > 35°C であることから、区分2に該当する。 自己反応性に関わる原子団(不飽和結合)を含むが、UNRTDG (UN2047)でクラス3PG IIであり、上位の自己反応性物質には該当しないと考えられるので、タイプGとした。	510°C (GESTIS (Access on Nov. 2011))	15°C (CC) (HSDB (2003))	94°C (CRC (91st, 2010))		C3H4Cl2	・試験で爆発性の反応を示さない ・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	91	新規	23A5166	1,1-ジエトキシエタン	105-57-7	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点-21°C [密閉式](HSDB)は < 23°C であり、かつ、初留点102.7°C (HSDB)は > 35°C であることから、区分2に該当する。なお、UNRTDG (UN1088)クラス3PG IIに分類されている。	230°C (HSDB (2003))	-21°C (CC) (HSDB (2003))	102.7°C (Merck (14th, 2006))		C6H14O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	92	新規	23A5167	ジプロピルエーテル	111-43-3	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点21°C [密閉式](ICSC(J) (2002))は < 23°C であり、沸点が90.5°C (ICSC(J) (2002))であるので区分2に該当する。なお、UNRTDG (UN2384)でクラス3PG IIである。	188°C (ホンメル (1996))	21°C(CC) (ICSC(J) (2002))	90.5°C (ICSC(J) (2002))		C6H14O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体	93	新規	23A5168	1-クロロペンタン	543-59-9	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点13°C [密閉式](Merck(14th,2006))は < 23°C であり、かつ、初留点107.8°C (Merck(14th,2006))は > 35°C であることから、区分2に該当する。なお、UNRTDG (UN1107)でクラス3PG IIに分類されている。	260°C (HSDB(2002))	13°C(CC) (Merck (14th, 2006))	107.8°C (Merck (14th, 2006))		C5H11Cl	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、特殊引火物	94	新規	23A5170	N,N-ジメチルエチルアミン	598-56-1	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点-45.5°C [密閉式](IUCLID (2000))は < 23°C であり、かつ、初留点36.5°C (Howard (1997))は > 35°C であることから、区分2に該当する。	190°C (IUCLID (2000))	-45.5°C (CC) (IUCLID (2000))	36.5°C (Howard (1997))		C4H11N	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類の特殊引火物該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	95	新規	23A5173	1-tert-ブトキシ-2-プロパノール	57018-52-7	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点44°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Dec. 2011))は ≥ 23°C かつ ≤60°C であることから、区分3に該当する。	373°C (ICSC (2006))	44°C (CC) (MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Dec. 2011))	151°C (ICSC (2006))		C7H16O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当

文献調査(GHS) : 調査該当100物質

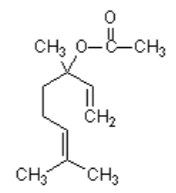
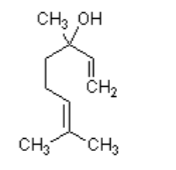
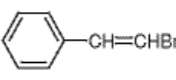
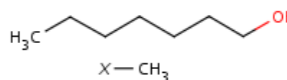
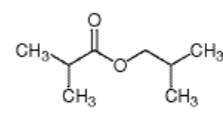
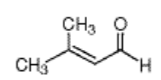
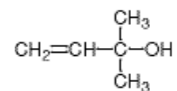
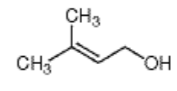
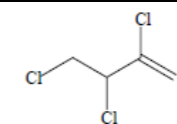
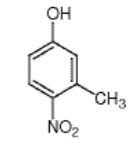
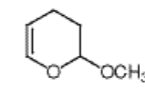
文献調査の結果	No	再/新	平成23年度 GHS分類結果							100度以下 発火点 (度)	-20度以下 引火点 (度)	40度以下 沸点 (度)	示性式又は構造式	分子式	選定根拠	
			ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報							分類根拠・問題点
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	96	新規	23A5178	2,5-ジメチルヘキサ-2,4-ジエン	764-13-6	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点29°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Nov. 2011))は $\geq 23^\circ\text{C}$ かつ $\leq 60^\circ\text{C}$ であることから、区分3に該当する。	292.8°C (559F) (NITE総合検索 (Access on Nov. 2011))	29°C (CC) (MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Nov. 2011))	134.5°C (CRC (91st, 2010))		C8H14	・試験で爆発性の反応を示さない ・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
						自己反応性化学品タイプG	—	—	—	自己反応性に関わる原子団(不飽和結合)を含み、一般流通品が安定剤としてBHT(ジブチルヒドロキシトルエン)を含有しており、タイプGと判断できる。						
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	97	新規	23A5186	1-ブロモ-3,4-ジフルオロベンゼン	348-61-8	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点33°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Dec. 2011))は $\geq 23^\circ\text{C}$ かつ $\leq 60^\circ\text{C}$ であることから、区分3に該当する。	データなし	33°C (CC) (MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Dec. 2011))	150-151°C (MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Dec. 2011))		C6H3BrF2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	98	新規	23A5187	シクロヘキセンオキシド	286-20-4	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点24°C [密閉式](GESTIS(Access on Dec. 2011); MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Dec. 2011))は $\geq 23^\circ\text{C}$ かつ $\leq 60^\circ\text{C}$ であることから、区分3に該当する。	データなし	24°C (CC) (MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Dec. 2011))	131.5°C (CRC (91st, 2010))		C6H10O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	99	新規	23A5194	エチレンスルフィド	420-12-2	引火性液体区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点10°C [密閉式](Bretherick (7th,2007))は $< 23^\circ\text{C}$ であり、かつ、初留点57°C (CRC (91st, 2010))は $> 35^\circ\text{C}$ であることから、区分2に該当する。	データなし	10°C (CC) (Bretherick (7th,2007))	57°C (dec) (CRC (91st, 2010))		C2H4S	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第2石油類非水溶性液体	100	新規	23A5195	プロピオール酸	471-25-0	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点58°C [密閉式](HSDB (2011))は $\geq 23^\circ\text{C}$ かつ $\leq 60^\circ\text{C}$ であることから、区分3に該当する。	データなし	58°C (C.C.) (HSDB (2011))	144°C(分解) (Ullmanns(E) (6th, 2003))		C3H2O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当

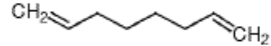
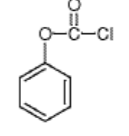
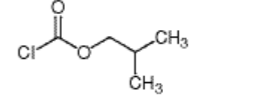
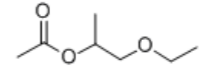
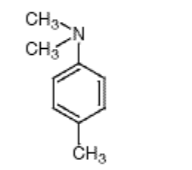
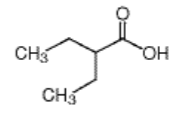
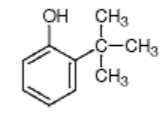
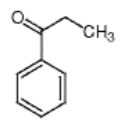
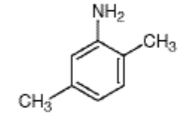
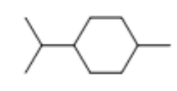
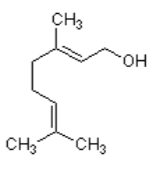
文献調査(GHS) : 調査該当56物質

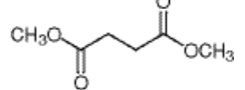
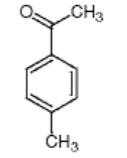
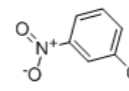
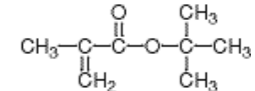
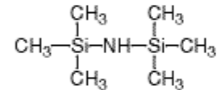
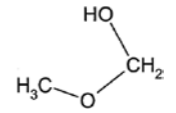
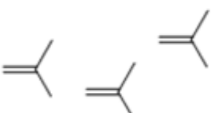
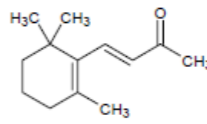
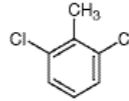
文献調査の結果	No.	平成24年度 GHS分類結果								100度以下	-20度以下	40度以下	示性式又は構造	分子式	選定根拠	
		再/新	ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報	分類根拠・問題点	発火点(度)	引火点(度)				沸点(度)
第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体	1	再分類	24B6503	トルエン	108-88-3	引火性液体区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点4.4℃ [密閉式](Merck (14th, 2006))は < 23℃ であり、かつ、初留点110.6℃(Merck (14th, 2006))は >35℃ であることから、区分2に該当する。	480℃	4℃ (密閉式)	111℃		C7H8	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類 第三石油類(非水溶性)	2	再分類	24B6504	ジクロロイソプロピルエーテル	108-60-1	引火性液体区分4	—	警告	可燃性液体	引火点77℃ [密閉式](GESTIS (Access on Jan. 2012))は > 60℃ かつ ≤93℃ であることから、区分4に該当する。	データなし	85℃ (o.c.)	187℃		C6H12Cl2O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体	3	再分類	24B6505	エチレングリコールモノメチルエーテル	109-86-4	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点39℃ [密閉式](ICSC(2003))は ≥ 23℃ かつ ≤60℃ であることから、区分3に該当する。なお、UNRTDG(UN1188)クラス3PGⅢである。	285℃	39℃ (開放式)	124.1℃		CH3O(CH2)2OH	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
危険物第4類第三石油類	4	再分類	24B6506	1-オクタノール	111-87-5	引火性液体区分4	—	警告	可燃性液体	引火点81℃ [密閉式](CRC (91st, 2010))は > 60℃ かつ ≤93℃ であることから、区分4に該当する。	253℃	81℃	194~195℃		C8H18O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類第三石油類	5	再分類	24B6508	サリチルアルデヒド	90-02-8	引火性液体区分4	—	警告	可燃性液体	引火点78℃ [密閉式](NFPA (14th, 2010))は > 60℃ かつ ≤93℃ であることから、区分4に該当する。	データなし	78℃	197℃		C7H6O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体	6	再分類	24B6509	シクロヘキシルアミン	108-91-8	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点26.5℃ [密閉式](Ullmanns(E) 6th, 2003))は ≥ 23℃ かつ ≤60℃ であることから、区分3に該当する。	293℃	28℃以下 (密閉式)	134.5℃		C6H13N	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体	7	再分類	24B6510	亜硝酸イソブチル	542-56-3	引火性液体区分2 自己反応性化学品タイプG	炎 —	危険 —	引火性の高い液体及び蒸気 —	引火点-21℃ [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich)(2010))は < 23℃ であり、かつ、沸点67℃(Merck (14th, 2006))は >35℃ であることから、区分2に該当する。なお、UNRTDG(UN2351)クラス3PGⅡ、Ⅲとなっている。 爆発性に関わる原子団(N-O)を含むが、UNRTDG(UN2351)でクラス3となっており、上位の自己反応性(クラス4.1、PG I)に該当しないのでタイプGになると判断した。	データなし	-21℃	67℃		C4H9NO2	・試験で爆発性の反応を示さない ・第4類該当
第5類自己反応性化学品、ニトロ化合物	8	再分類	24B6511	ニトログリコール	628-96-6	爆発物 不安定爆発物	爆弾の爆発	危険	不安定爆発物	UNRTDGでは純品は輸送禁止とされ、希釈品がクラス1.1Dに分類されている。	257℃ (5秒)	データなし	114℃ (爆発)		C2H4N2O6	・消防法とGHS分類が同じ ・第5類該当
第5類自己反応性化学品、ニトロ化合物	9	再分類	24B6512	ニトログリセリン	55-63-0	爆発物 不安定爆発物	爆弾の爆発	危険	不安定爆発物	UNRTDGでは純品は輸送禁止とされている。なお、希釈品はクラス1.1Dに分類されている。	270℃	データなし	218℃ (爆発)		C3H5N3O9	・消防法とGHS分類が同じ ・第5類該当

文献調査の結果	No.	平成24年度 GHS分類結果								100度以下	-20度以下	40度以下	示性式又は構造	分子式	選定根拠	
		再/新	ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報	分類根拠・問題点	発火点(度)	引火点(度)				沸点(度)
危険物第4類第3石油類	10	再分類	24B6515	メタクリル酸2-エチルヘキシル	688-84-6	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点92℃ [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Apr. 2012))は > 60℃ かつ ≤93℃ であることから、区分4に該当する。	データなし	2℃ (不明)	229℃		C12H22O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	11	再分類	24B6519	エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート (別名: セロソルブアセテート)	111-15-9	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点47℃ [密閉式](NFPA (14th, 2010))は ≥ 23℃ かつ ≤60℃ であることから、区分3に該当する。なお、UNRTDG(UN1172)はクラス3、PGIIIである。	79℃, 380℃	51.1℃ (密閉式) 52℃ (密閉式) 56℃ (密閉式)	156℃		C6H12O3	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体	12	新規	24A6001	3-(ジメチルアミノ)プロパン	1738-25-6	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点64℃ [密閉式](CC)は > 60℃ かつ ≤ 93℃ であることから、区分4に該当する。	データなし	64℃	171℃		C5H10N2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体	13	新規	24A6003	グリコロニトリル	107-16-4	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	「市販品は安定化のために水で希釈されている (ICSC(J) (2002)).」との情報がある。グリコロニトリル 55% を含む水溶液の引火点は69℃ [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (2010)) であり、この値は > 60℃ かつ ≤93℃ により区分4に相当する。なお、引火点56.1℃ [不明] (安全性DB(1997))	データなし	69℃	183℃	HOCH ₂ -CN	C2H3NO	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	14	新規	24A6004	2,4-ヘキサジエナール	142-83-6	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点67℃ [密閉式](Lange (16th, 2005))は > 60℃ かつ ≤93℃ であることから、区分4に該当する。	データなし	67℃	データなし		C6H8O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体	15	新規	24A6005	メチルイソプロペニルケトン	814-78-8	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点9℃ [密閉式](HSDB (2002))は < 23℃ で初留点が98℃ (HSDB(2002))は > 35℃ であることから区分2とした。	データなし	9℃	100℃		C5H8O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	16	新規	24A6006	2-(1-アジリジニル)エタノール	1072-52-2	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点85℃ [開放式](HSDB (2006))は、所定の密閉式測定法では > 60℃ かつ ≤ 93℃ と判断できるので、区分4とした。なお、引火点67℃ [不明] (Lange (18th, 2005)) というデータがあるが、測定法が不明であるので採用しなかった。	335℃	85℃	156℃		C4H9NO	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	17	新規	24A6007	ジメチルシアナミド	1467-79-4	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点71℃ [密閉式](Sax(11th, 2004))は > 60℃ かつ ≤ 93℃ であることから、区分4に該当する。	データなし	71℃	164℃		C3H6N2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	18	新規	24A6008	1-オクタニン	111-86-4	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点60℃ [密閉式](NFPA (14th, 2010))は ≥ 23℃ かつ ≤ 60℃ であることから、区分3に該当する。	265℃	65℃	176℃		C8H19N	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	19	新規	24A6009	3-メチル-1-ブチン-3-オール	115-19-5	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点20℃ [密閉式](Bretherick (7th, 2007))は < 23℃ であり、かつ、初留点104-105℃ (Merck (14th, 2006))は > 35℃ であることから、区分2に該当する。	350℃	データなし	103℃		C5H8O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体	20	新規	24A6010	3-メトキシ-3-メチル-1-ブタノール	56539-66-3	引火性液体 区分4	—	警告	可燃性液体	引火点68℃ [密閉式](16112の化学商品 化学工業日報社刊)、71℃ [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich)(Access on May. 2012))は、いずれも > 60℃ かつ ≤ 93℃ であることから、区分4に該当する。	395℃	67℃	174℃		C6H14O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	21	新規	24A6015	ガンマ-クロロプロピルトリメチルシロキサン	2530-87-2	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点45℃ [密閉式](SIDS(2006))は ≥ 23℃ かつ ≤ 60℃ であることから、区分3に該当する。なお、その他「84℃ (不明)、57℃ (不明) (SIDS(2006))」のデータがあるが、安全性を考慮して45℃を採用した。	データなし	78℃	195℃		C6H15ClO3Si	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当

文献調査(GHS) : 調査該当56物質

文献調査の結果	No.	平成24年度 GHS分類結果								100度以下	-20度以下	40度以下	示性式又は構造	分子式	選定根拠	
		再/新	ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報	分類根拠・問題点	発火点(度)	引火点(度)				沸点(度)
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	22	新規	24A6018	酢酸リナリル	115-95-7	引火性液体 区分4	-	警告	可燃性液体	引火点85℃ [密閉式](ICSC(J) (2009))は > 60℃ かつ ≤93℃ であることから、区分4に該当する。	データなし	85℃	220℃		C12H20O2	・試験で爆発性の反応を示さない ・第4類該当
						自己反応性化学品 タイプG	-	-	-	自己反応性に関わる原子団(不飽和結合)を含むが、「Instability: 0」(NFPA (14th, 2010))との情報より、自己反応性はないと判断した。						
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	23	新規	24A6020	リナロール	78-70-6	引火性液体 区分4	-	警告	可燃性液体	引火点71℃ [密閉式](HSDB (2009))は > 60℃ かつ ≤93℃ であることから、区分4に該当する。	235℃	71℃	200℃		C10H18O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	24	新規	24A6034	ベータ-ブロモステレン	103-64-0	引火性液体 区分4	-	警告	可燃性液体	引火点79℃ [密閉式](HSDB(2003))は >60℃ かつ ≤93℃ であることから、区分4に該当する。	データなし	120℃	データなし		C8H7Br	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	25	新規	24A6036	イソオクタノール	26952-21-6	引火性液体 区分4	-	警告	可燃性液体	引火点82℃ [開放式](HSDB (2009))は、所定の密閉式測定法でも >60℃ かつ ≤93℃ と判断できるため、区分4とした。	データなし	84℃	183℃		C8H18O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	26	新規	24A6038	イソ酪酸イソブチル	97-85-8	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点37℃ [密閉式](GESTIS (Access on June, 2012))は ≥ 23℃ かつ ≤60℃ であることから、区分3に該当する。なお、UNRTDG(UN2528)クラス3PGIIIである。	データなし	42℃	147℃		C8H16O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	27	新規	24A6039	3-メチル-2-ブテナール	107-86-8	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点25℃ [密閉式](GESTIS (Access on June 2012))は ≥ 23℃ かつ ≤60℃ であることから、区分3に該当する。	145℃	37℃	135℃		C5H8O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体	28	新規	24A6040	3-メチル-1-ブテン-3-オール	115-18-4	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点10℃ [密閉式](ICSC(J) (2008))は <23℃ であり、かつ、初留点97℃ (ICSC(J) (2008))は >35℃ であることから、区分2に該当する。	データなし	19℃	96℃		C5H10O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	29	新規	24A6041	3-メチル-2-ブテン-1-オール	556-82-1	引火性液体 区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点43℃ [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on June, 2012))は ≥ 23℃ かつ ≤60℃ であることから、区分3に該当する。	データなし	53℃	140℃		C5H10O	・試験で爆発性の反応を示さない ・第4類該当
						自己反応性化学品 タイプG	-	-	-	自己反応性に関わる原子団(不飽和結合)を含んでいる。SIDS (2003)では、化学構造評価でNot explosiveと報告され、これを専門家は制限付きでValidと評価していることから、タイプGとした。						
-	30	新規	24A6042	2,3,4-トリクロロ-1-ブテン	2431-50-7	引火性液体 区分4	-	警告	可燃性液体	引火点63℃ [密閉式](ICSC (2004))は >60℃ かつ ≤93℃ であることから、区分4に該当する。	データなし	63℃	155~162℃		C4H5Cl3	・第4類該当 (特殊引火物に該当しない)
-	31	新規	24A6043	4-ニトロ-メタ-クレゾール	2581-34-2	自己反応性化学品 タイプG	-	-	-	爆発性に関わる原子団(ニトロ基)を含んでいるが、国連輸送規則ではUN2446クラス6.1PGIIIであるためタイプGとした。	455℃	データなし	データなし		C7H7NO3	・試験で爆発性の反応を示さない ・該当なし
第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体	32	新規	24A6044	3,4-ジヒドロ-2-メトキシ-2	4454-05-1	引火性液体 区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点16℃ [不明](Lange (16th, 2005))は <23℃ であり、かつ、初留点128℃ (CRC (91st, 2010))は >35℃ であることから、区分2に該当する。なお、22.8℃ [密閉式](SIDS (2003))というデータもある。	データなし	16℃	127℃		C6H10O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当

文献調査の結果	No.	平成24年度 GHS分類結果										100度以下	-20度以下	40度以下	示性式又は構造	分子式	選定根拠
		再/新	ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報	分類根拠・問題点	発火点(度)	引火点(度)	沸点(度)				
第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体	33	新規	24A6047	1,7-オクタジエン	3710-30-3	引火性液体区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点10℃ [密閉式] (MSDS (Sigma-Aldrich) (2012))は <23℃であり、かつ、初留点115.5℃ (CRC (91st, 2010))は >35℃であることから、区分2に該当する。	230℃	9℃	120℃		C8H14	・試験で爆発性の反応を示さない ・第4類該当	
						自己反応性化学品タイプG	-	-	-	自己反応性に関わる原子団(不飽和結合)を含むが、UNRTDGではUN2309 クラス3(II)に分類されており、上位の自己反応性化学品には該当しないため、タイプGと判断した。							
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	35	新規	24A6048	クロロ炭酸フェニルエステル	1885-14-9	引火性液体区分4	-	警告	可燃性液体	引火点69℃ [密閉式] (ICSC (J) (2005))は >60℃かつ ≤93℃であることから、区分4に該当する。	データなし	78℃	187℃		C7H5ClO2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当	
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	36	新規	24A6049	クロロ炭酸イソブチルエステル	543-27-1	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点27℃ [密閉式] (ICSC (2005))は ≥ 23℃かつ ≤60℃であることから、区分3に該当する。	535℃	35℃	129℃		C5H9ClO2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当	
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	37	新規	24A6050	プロピレングリコールモノメチルエーテル	54839-24-6	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点53℃ [密閉式] (ICSC (2004))は ≥ 23℃かつ ≤60℃であることから、区分3に該当する。	データなし	54℃	約158℃		C7H14O3	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当	
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	38	新規	24A6051	N,N-ジメチル-パラトルイジン	99-97-8	引火性液体区分4	-	警告	可燃性液体	引火点76℃ [密閉式] (MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on June, 2012))は >60℃かつ ≤93℃であることから、区分4に該当する。	425℃	90℃	211℃		C9H13N	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当	
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	39	新規	24A6064	2-エチルブタン酸	88-09-5	引火性液体区分4	-	警告	可燃性液体	引火点87℃ [密閉式] (Ullmanns(E) (6th, 2003))は >60℃かつ ≤93℃であることから、区分4に該当する。	463℃	94℃	193℃		C6H12O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当	
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	40	新規	24A6065	2-tert-ブチルフェノール	88-18-6	引火性液体区分4	-	警告	可燃性液体	引火点80℃ [密閉式] (ICSC (J) (2004))は >60℃かつ ≤93℃であることから、区分4に該当する。	355℃	102℃	221℃		C10H14O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当	
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	41	新規	24A6071	1-フェニルプロパン-1-オン	93-55-0	引火性液体区分4	-	警告	可燃性液体	引火点85℃ [密閉式] (GESTIS (Access on July, 2012))は >60℃かつ ≤93℃であることから、区分4に該当する。	データなし	92℃	216℃		C9H10O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当	
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	42	新規	24A6073	2,5-ジメチルアニリン	95-78-3	引火性液体区分4	-	警告	可燃性液体	93℃ [密閉式] (GESTIS (Access on July, 2012))、96℃ [密閉式] (Sigma-Aldrich MSDS) のデータがあるが、安全側のデータを採用し、区分4と判断した。	データなし	106℃	104℃ (2kPa)		C8H11N	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当	
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	43	新規	24A6081	1-イソプロピル-4-メチルピペリン	99-82-1	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点40.5℃ [密閉式] (溶剤ポケットブック (1994))は ≥ 23℃かつ ≤60℃であることから、区分3に該当する。	データなし	44.5℃	168~170℃		C10H20	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当	
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	44	新規	24A6084	ゲラニオール	106-24-1	引火性液体区分4	-	警告	可燃性液体	引火点 76℃ [不明] (Lange (2005))は測定法が不明であるが、所定の測定法で、>60℃かつ ≤93℃と判断できるので、区分4とした。	データなし	112℃	230℃		C10H18O	・試験で爆発性の反応を示さない ・第4類該当	
						自己反応性化学品タイプG	-	-	-	自己反応性に関わる原子団(オレフィン類)を含むが、NFPA (14th, 2010)の情報に「Instability: 0」とあり、安定と思われるためタイプGとした。							

文献調査の結果	No.	平成24年度 GHS分類結果								100度以下	-20度以下	40度以下	示性式又は構造	分子式	選定根拠	
		再/新	ID	名称	CAS	分類結果	シンボル	注意喚起語	危険有害性情報	分類根拠・問題点	発火点(度)	引火点(度)				沸点(度)
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	45	新規	24A6085	コハク酸ジメチル	106-65-0	引火性液体区分4	—	警告	可燃性液体	引火点90°C [密閉式](MSDS(Sigma-Aldrich)(Access on Aug. 2012))は >60°C かつ ≤ 93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	98°C	196°C		C6H10O4	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	46	新規	24A6088	2-ブテン-1,4-ジオール	110-64-5	自己反応性化学品タイプG	—	—	—	自己反応性に関わる原子団(不飽和結合)を含むが、「Instability: 0」(NFPA (14th, 2010))、「危険有害反応可能性: 特別な反応性は報告されていない。」(MSDS (東京化成) (Access on Aug. 2012))との情報より、自己反応性はないと判断できるためタイプGとした。	データなし	128°C	234°C	<chem>HOCH2CH=CHCH2OH</chem>	C4H8O2	・試験で爆発性の反応を示さない ・第4類該当
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	47	新規	24A6096	パラ-メチルアセトフェノン	122-00-9	引火性液体区分4	—	警告	可燃性液体	引火点82°C [密閉式](MSDS(Sigma-Aldrich)(2012))は >60°C かつ ≤ 93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	92°C	226°C		C9H10O	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第三石油類水溶性液体	48	新規	24A6099	3-アミノ-1-プロパノール	156-87-6	引火性液体区分4	—	警告	可燃性液体	引火点79°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Aug. 2012))は >60°C かつ ≤ 93°C であることから、区分4に該当する。	375°C	101°C	188°C	<chem>H2NCCC(O)O</chem>	C3H9NO	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第5類 ニトロ化合物 第二種自己反応性物質	49	新規	24A6108	メタ-ニトロフェノール	554-84-7	自己反応性化学品タイプG	—	—	—	爆発性に関わる原子団(N-O)を含んでいるが、UNRTDG(UN1663)でクラス6.1PGIIIに分類されているためタイプGとした。	データなし	データなし	194°C (9.3kPa)		C6H5NO3	・第5類該当
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	50	新規	24A6111	メタクリル酸tert-ブチル	585-07-9	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	引火点27°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Sep. 2012))は ≥ 23°C かつ ≤ 60°C であることから、区分3に該当する。	データなし	30°C	136°C		C8H14O2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体	51	新規	24A6122	ヘキサメチル-ジシラザン	999-97-3	引火性液体区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点9°C [密閉式](NFPA (14th, 2010))は <23°C であり、かつ、初留点126°C (Merck(14th, 2006))は >35°C であることから、区分2に該当する。	380°C	8°C	126°C		C6H19NSi2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体	52	新規	24A6124	トリメチルシラノール	1066-40-6	引火性液体区分2	炎	危険	引火性の高い液体及び蒸気	引火点15.5°C [密閉式](GESTIS (Access on Oct. 2012))は < 23°C であり、かつ、初留点98.6 - 99.0°C (MSDS (Sigma-Aldrich) (Access on Oct. 2012))は >35°C であることから、区分2に該当する。	> 340°C	4°C	98.6~99.0°C	<chem>C[Si](C)(C)O</chem>	C3H10OSi	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当
—	53	新規	24A6133	1-メトキシメタノール	4461-52-3	引火性液体区分3	炎	警告	引火性液体及び蒸気	一般流通品はメタノールを45%含む混合物で、引火点39.9°C (ChemNet (webより))というデータがあり、これは ≥ 23°C かつ ≤ 60°C のため区分3とした。	データなし	39.943°C (予測値)	82.516°C (予測値)		C2H6O2	・第4類該当 (特殊引火物に該当しない)
第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体	54	新規	24A6135	トリイソブチレン	7756-94-7	引火性液体区分3 自己反応性化学品タイプG	炎 —	警告 —	引火性液体及び蒸気 —	引火点42°C [密閉式](ホンメル(1996))は ≥ 23°C かつ ≤ 60°C であることから、区分3に該当する。 自己反応性に関わる原子団(不飽和結合)を含むが、UNRTDGではUN2324 クラス3(III)に分類されており、上位の自己反応性化学品には該当しない。	データなし	50°C	177°C		C12H24	・試験で爆発性の反応を示さない ・第4類該当
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	55	新規	24A6138	ヨノン	79-77-6	自己反応性化学品タイプG	—	—	—	自己反応性に関わる原子団(不飽和結合)を含んでいるが、「nicht explosionsgefahrllich aufgrund der chemischen Struktur (IUCILID (2000))」という情報からタイプGと判断できる。	285°C	125°C	266°C		C13H20O	・試験で爆発性の反応を示さない ・第4類該当
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体	56	新規	24A6144	2,6-ジクロロトルエン	118-69-4	引火性液体区分4	—	警告	可燃性液体	引火点79°C [密閉式](MSDS (Sigma-Aldrich)(Access on Dec. 2012))は > 60°C かつ ≤ 93°C であることから、区分4に該当する。	データなし	92°C	198°C		C7H6Cl2	・消防法とGHS分類が同じ ・第4類該当